

特集 2014年度開設博物館情報 (開設博物館一覧表：127館掲載)

特集 2014年度リニューアル博物館情報
(リニューアル博物館一覧表：199館掲載)

特集：2014年度開設博物館情報

丹青研究所調べによる、2014年度(2014年4月～2015年3月)に開設した全国の博物館数は127館です。ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2014年度の開設博物館について傾向を示し、都道府県別の開設博物館リストを掲載します。

■ 2014年度開設博物館の傾向

2014年度の開設博物館数は、2013年度と同様に、120館台を記録しました。近年は120館台の開設数で推移しています。

この値には、設置場所(敷地)を換えて新たな施設を整備した「移転新築施設」や、建物の老朽化や機能の見直し・拡張などを理由に、旧施設を取り壊して新たに建設した「取り壊し新築施設」が含まれています。また、既存施設(以前は博物館以外の施設として機能)のリノベーションにより新たな施設として誕生したものや、寄贈・移管・売却により、設置・運営主体を替え、新たな施設となったものも含まれています。

なお、本調査では、博物館に類する施設として、常設の展示空間を有して、資料を展示したり、普及啓発活動などを行っている施設も対象に含めています。

2014年度開設博物館には、鶴岡市立加茂水族館(山形県)、重監房資料館(群馬県)、順天堂大学 日本医学教育歴史館(東京都)、武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館(東京都)、立教学院展示館(東京都)、箱根ジオミュージアム(神奈川県)、福井県ふるさと文学館、上田市立美術館

(長野県)、三重県総合博物館、四日市公害と環境未来館(三重県)、さかい利品の杜(大阪府)、関西学院大学博物館(兵庫県)、竹中大工道具館(兵庫県)、総社吉備路文化館(岡山県)、御船町恐竜博物館(熊本県)、薩摩藩英国留学生記念館(鹿児島県)などが見られました(後掲の「2014年度開設博物館一覧表」をご参照ください)。

代表的な施設を一覧すると、前述した移転新築施設(3館)や既存施設のリノベーションによって誕生した施設(8館)、図書館・文書館や劇場・ホールなどと複合・併設して新たに誕生した施設が見られます。2014年度開設博物館全体を概観すると、特に、既存施設や歴史的建造物の活用・転用による新たな施設整備のケースが多いことがわかります。

詳細は後述しますが、学校、図書館、役所、観光施設、商業ビル、空き店舗、さらには閉館となった博物館や美術館を活用・転用したケースを各地で確認することができました。特に、歴史的建造物(指定文化財を含む)を活用して整備したケースが次第に増えています。なお、2014年度開設博物館は、博物館・美術館単独の施設として設置されたケースの方が、他の施設との複合・併設によって設置されたケースより多く見られました。人口減少社会といわれる今日において公共施設の見直し(集約化・複合化・転用など)はますます推進されます。また、公共施設に限らず、地方では中心市街地や商店街の空きビル、空き店舗の再生・利活用も必要とされるため、「既存施設の活用・転用」は今後も多く見られると考えます。

2014年度開設博物館には、「移転新築施設」「取り壊し

新築施設「設置・運営主体を替えて新たな施設として開館した施設」(計30館)が全体の4分の1に達しました。本調査事業では、これまで同様、開設博物館としてカウントしていますが、これらをリニューアルと捉えた場合、後述するリニューアル博物館の数はさらに増え、200館を超えることとなります。

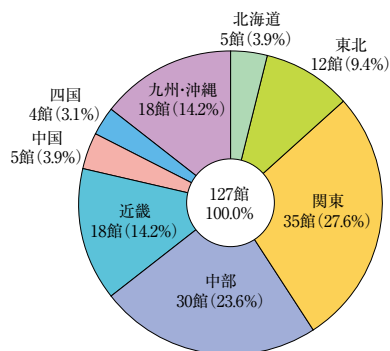
また、郷土資料館、歴史民俗資料館といった地域の歴史や文化を広く扱う施設(全体の約1割)に比べて、特定のテーマを設定した施設や、歴史遺産・自然公園などに関するガイド施設(全体の約4分の1)が多く見られることも近年の開設傾向の特徴の一つと言えます。

■地方別に見た開設傾向

合計127館を開設数の多い地方順に見ると、関東(35館/茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川)、中部(30館/新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知)、近畿(18館/三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)、九州・沖縄(18館/福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)、東北(12館/青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)、北海道(5館)、中国(5館/鳥取、島根、岡山、広島、山口)、四国(4館/徳島、香川、愛媛、高知)となります。2013年度の結果と比較すると、関東(28→35館)、中部(25→30館)、東北(9→12館)が開設数を増やしています。人口の多い都市部や、多くの人を訪れる観光地で多くの開設状況を確認することができました。

都道府県別では、2013年度より開設数を増やした16館の東京都を筆頭に、新潟県が9館、兵庫県が7館、長野県が6館、北海道、栃木県、群馬県、鹿児島県が各5館、福島県、富山県、三重県が各4館、岩手県、埼玉県、神奈川県、岐阜県、大阪府、長崎県、熊本県、大分県が各3館となっています。一方、奈良県、佐賀県、宮崎県では、新たに開設された博物館を確認することはできませんでした。2013年度では新たに開設された博物館を確認することができなかった福島県(0→4館)、三重県(0→4館)、熊本県(0→3館)はそれぞれ開設状況を確認することができました。

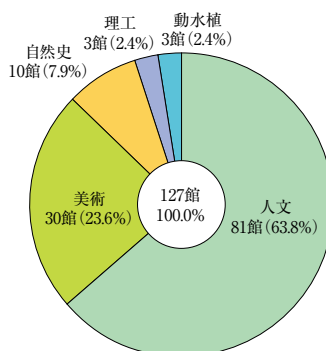
<図-1> 地方別開設博物館数の比率



■館種別に見た開設傾向

これまでに行った年度別開設博物館に関する調査結果(結果は、全て本誌バックナンバーにおいて掲載)と同様、歴史博物館や考古博物館、郷土資料館、文学館、総合博物館などを含む「人文」系施設が最も多く、全体の60%以上を占めています。美術館や画家の記念館などを含む「美術」系施設も全体の4分の1近くを示しており、「人文」「美術」系施設で、全体の87.4%に達しています。2013年度の結果と比較すると、「人文」系施設(71→81館)は開設数を増やしています。「美術」「自然史」「動水植」系施設は2013年度の開設数と同数でした。一方、「理工」系施設(12→3館)は開設数を減らしています。

<図-2> 館種別開設博物館数の比率



■設立主体別に見た開設傾向

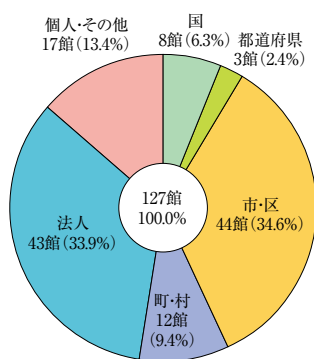
「市・区」による施設が最も多く、全体の35%近くを占めました。2013年度は最も多かった「法人」による施設は今回も多く見られ、全体の3分の1を占めています。「市・区」「法人」の施設で全体の68.5%に達しています。「都道府県」「市・区」「町・村」を合わせた公立の施設は、全体の46.4%を占めています。2013年度も全体の47.6%を占めており、この傾向はあまり変わっていません。

「法人」の内訳に目を転じると、株式会社(17館)、学校法人(8館)、財団法人(7館:公益財団法人4、一般財団法人3)、宗教法人(3館)、社会福祉法人(3館)、NPO法人(2館)、有限会社(2館)、社団法人(1館:公益社団法人1)で構成されています。前回に比べ、「学校法人」「宗教法人」「社会福祉法人」「有限会社」による施設の開設数が増え、「株式会社」「財団法人」「社団法人」による施設の開設数が少なくなりました。

「法人」の内訳で最も多い株式会社による施設には、キユーピー株式会社、株式会社中村屋、株式会社吉徳、株式会社パイロットコーポレーション、株式会社新潟日報社、東洋計器株式会社、株式会社長府製作所などの施設が見られました。

「国」による施設には、環境省、厚生労働省、防衛省(陸上自衛隊)、国立大学法人の施設が、「その他」には、県と市による共同設立の施設や、協同組合、有志団体、高校同窓会、土地改良区による施設などが含まれています。

<図-3> 設立主体別開設博物館数の比率



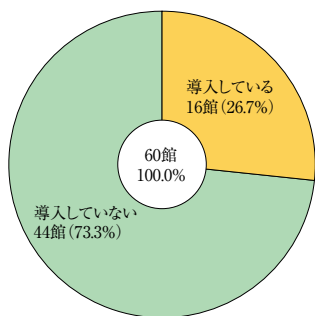
■ 指定管理者について

2003年9月に施行された地方自治法の改正を受けて導入された「公立施設における指定管理者制度」について調査した結果、2014年度開設博物館（公立）の26.7%の施設で同制度を導入していることがわかりました。2011・2012年度開設博物館（当時は2ヵ年分の傾向をまとめて調査）、2013年度開設博物館、2014年度開設博物館の調査結果を見ると、次第に導入状況が減っています（32.1%→29.5%→26.7%）。なお、「導入していない」施設のうち、2館は「指定管理者制度の導入を検討中」と回答しています。

指定管理者には、株式会社（共同企業体を含む）をはじめ、公益財団法人、一般社団法人、NPO法人、一般財団法人、観光協会、地元の史跡愛護協会が見られます。また、「NPO法人・株式会社」のように、異なる法人格を持つ複数の事業者による共同事業体が指定管理者となっているケースも見られます。

なお、施設の運営については、指定管理者による運営以外に、管理運営委託を行っているケースや共同運営を行っているケースも見られています。

<図-4> 指定管理者制度の導入状況



■ 施設の形態について

博物館を単独の建物として設置しているか、それとも建物内に博物館を複合・併設する形態で設置しているかについて調査した結果、「単独の建物である」館は全体の約6割となりました。一方、「他施設との複合・併設である」館の比率は、前回調査まで顕著であった増加傾向とは異なり、約4割と2009・2010年度開設博物館（当時は2ヵ年分の傾向をまとめて調査）の値（40.9%）に近似しました。

「複合・併設」の形態（回答：複数選択あり）に目を転

じると、「他の博物館との複合・併設」が2館（市立博物館に併設など）、「博物館以外の社会教育施設・文化施設との複合・併設」が11館（図書館、公民館、文書館、劇場・ホール、交流センター、青少年センター、地区行政センターなどとの組み合わせ）、「学校との複合・併設」が10館（大学の校舎内に設置など）、「企業、官公庁との複合・併設」が14館（庁舎、事務所、オフィスビル、消防局などとの組み合わせ）、「研究施設との複合・併設」が1館、「商工施設との複合・併設」が8館（複合商業施設、工場などとの組み合わせ）、「観光施設との複合・併設」が7館（物産館、ホテル、観光案内所、複合レジャー施設、道の駅などとの組み合わせ）、「住宅との複合・併設」が2館、「その他の施設との複合・併設」が6館（障害者支援施設、神社の神楽殿、公園などとの組み合わせ）であることがわかります。

近年の新設館ではこうした複合・併設形態のバリエーションは、ますます多様化しています。今回の開設博物館では、複数の施設との複合事例が目につきました。複合商業施設内に設けられた施設や工場に併設された施設、オフィスビルとの複合施設も複数含まれています。現在も各地で交流拠点や観光拠点となる大規模な複合施設が整備されていますが、博物館が一つの構成要素となることで、来館の機会が増えたり、施設の認知度が向上することにつながると望ましいと考えます。

複合・併設する施設によって利用する人や集う人は異なってくると思いますが、こうした異なる施設や機能との組み合わせによって、博物館の特性や魅力を発揮できる展開（博物館に関心のない人を引き込む仕掛けづくりなど）が図れると望ましいと考えます。

博物館の設置にあたって、既存の建物や歴史的建造物を活用・転用して行っているかについて調査した結果、全体の6割以上がこうした建物を活用・転用して博物館を設置していることがわかりました。新たに施設を建設したのは全体の4割弱でした。調査のたびに少しずつ「活用・転用」型の施設整備の比率が高くなっています（54.7%→55.5%→57.1%→62.2%）。

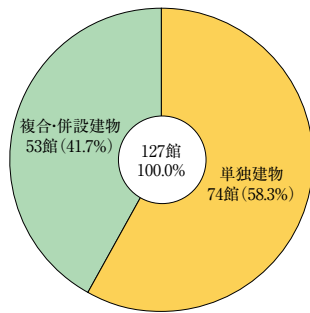
「活用・転用」の形態（回答）に目を転じると、「既存の建物」として、庁舎（支所や役所の一部を含む）、（旧）校舎（廃校となった小学校・中学校の校舎など）、大学の建物（校舎、図書館、講堂など）、企業の建物（旧本社ビルなど）、（旧）幼稚園、図書館、商業ビル、空き店舗、オフィス、工場、民家、（旧）駅舎、（旧）交流施設、（旧）病院、（旧）国民宿舎、（旧）管理事務所、観光会館、物産館、ホテル別館、水産物加工場、（旧）クラブハウスなどとともに、（旧）博物館・美術館が挙げられています。この中には、四日市公害と環境未来館（四日市市立博物館のフロアを改修して整備）、総社吉備路文化館（旧岡山県立吉備路郷土館）、臼杵市歴史資料館（旧中国陶磁美術館）なども含まれています。

「歴史的建造物」は、時計台(国登録有形文化財)、日本殿(市指定有形文化財)、旧陸軍兵舎、旧海軍火薬廠、土蔵・石蔵、母屋、旧邸宅や生家などが挙げられています。

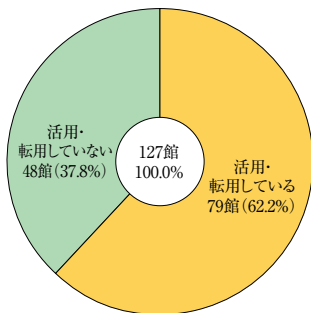
既存の建物や歴史的建造物の活用・転用傾向は、近年の施設整備において既に定着しています。市町村の合併や少子高齢化(人口減少社会)、財政健全化などを踏まえた公共施設の再編が今後も予定されているため、この傾向はさらに続くものと考えます。施設や空間の再利用・有効利用だけを目的にするのではなく、旧施設の特色や長所を活かしたリノベーションが必要ではないかと思えます。

少子化や転出による人口減や市街地における空き店舗の増加などの傾向は地方を中心にますます深刻化しています。地域の観光や交流の核となる施設づくりに向けて、高い魅力や価値を有している歴史的建造物や、利用しやすい好立地にあり十分な空間や設備を有している既存の建物を上手に再生させる取り組みに今後も注目していきたいと思えます。

<図-5> 施設の形態(単独/複合・併設)



<図-6> 施設の形態(既存施設や歴史的建造物の活用・転用)



■施設規模について

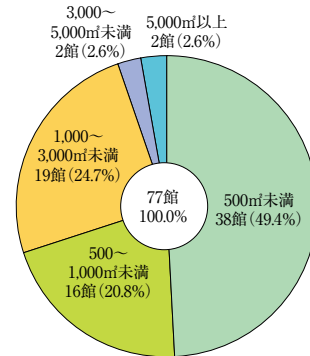
有効データ数：77館 2014年度開設博物館の延床面積を集計した結果、最大値は11,705㎡、最小値は24㎡、平均値は1,051㎡、中央値は532㎡でした。最大値、平均値、中央値は前回報告の値を大きく上回っています。

規模(延床面積)別開設博物館数の比率を示したグラフを見ると、1,000㎡未満の施設の占める割合は70.2%を数えました。一方、「1,000～3,000㎡未満」の施設が全体の4分の1程度を示していることもわかります。3,000㎡未満の施設の比率(94.9%)は、高い数値を示した前回報告の値とほぼ同じでした。

館種別の延床面積を見ると、「美術」が平均値、中央値ともに全体の数値を下回っています。一方、「人文」「自然史」は平均値は全体の数値を下回っていますが、中央値は全体の数値を上回っています。また、「人文」「美術」は「500㎡未満」の占める割合が最も高く、半数近く、半数以上の施設がこの区分に該当していることがわかります。

設立主体別の延床面積を見ると、「町・村」が平均値、中央値ともに全体の数値を上回っていることが特徴的です。一方、「国」「法人」「個人・その他」は平均値、中央値ともに全体の数値を下回っています。

<図-7> 規模(延床面積)別開設博物館数の比率

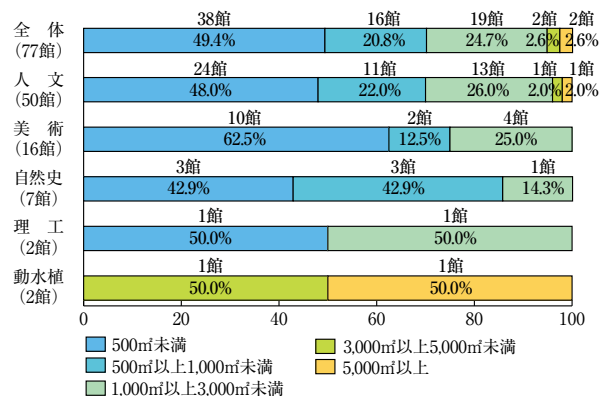


<表-1> 館種別の延床面積(最大値、最小値、平均値、中央値)

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (77館)	11,705	24	1,051	532
人文 (50館)	11,705	24	1,036	550
美術 (16館)	1,600	40	585	318
自然史 (7館)	1,620	350	807	821
理工 (2館)	2,353	270	1,312	1,312
動水植 (2館)	7,500	4,003	5,752	5,752

※()内は有効データ館数 ※単位は㎡

<図-8> 館種で見る規模(延床面積)別開設博物館数の比率



<表-2> 設立主体別の延床面積(最大値、最小値、平均値、中央値)

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (77館)	11,705	24	1,051	532
国 (5館)	821	190	508	464
都道府県 (2館)	11,705	1,020	6,363	6,363
市・区 (30館)	4,003	53	1,043	763
町・村 (8館)	2,353	126	1,214	1,094
法人 (23館)	7,500	24	901	400
個人・その他 (9館)	1,600	40	436	200

※()内は有効データ館数 ※単位は㎡

■総工事費について

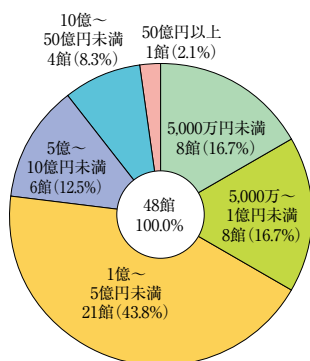
有効データ数：48館 総工事費を集計した結果、最大値は8,628,098千円、最小値は6,195千円、平均値は572,885千円、中央値は169,000千円でした。最大値、最小値、平均値、中央値の全てが前回報告の値を上回っています。数値的には少し持ち直してきたと捉えることができます。これまでに行った年度別開設博物館に関する調査結果を2006年度以降で辿ると、平均値は1,394,477千円→960,647千円→576,999千円→517,675千円→240,602千円→572,885千円、中央値は200,000千円→194,572千円→150,000千円→149,431千円→73,534千円→169,000千円となり、2009・2010年度開設博物館調査(当時は2ヵ年分の傾向をまとめて調査)時の値近くまで戻っています。

総工事費別開設博物館数の比率を示したグラフを見ると、「1億～5億円未満」の施設の占める割合が全体の4割以上と、最も多いことがわかります。前回報告では最も多かった「5,000万円未満」の施設の占める割合は全体の16.7%まで下がりました。「5,000万円未満」以外の区分は、全て前回報告より比率が高くなっています。

館種別の総工事費を見ると、「美術」が平均値、中央値ともに全体の数値を下回っています。一方、サンプル数の少ない「理工」「動水植」は平均値、中央値ともに全体の数値を上回っています。「人文」「美術」「自然史」は、「1億～5億円未満」の占める割合が最も多いことがわかります。

設立主体別の総工事費を見ると、サンプル数の少ない「都道府県」だけが平均値、中央値ともに全体の数値を上回っています。また、「都道府県」「市・区」「町・村」の平均値、中央値は前回報告の値を大きく上回りました。

<図-9> 総工事費別開設博物館数の比率

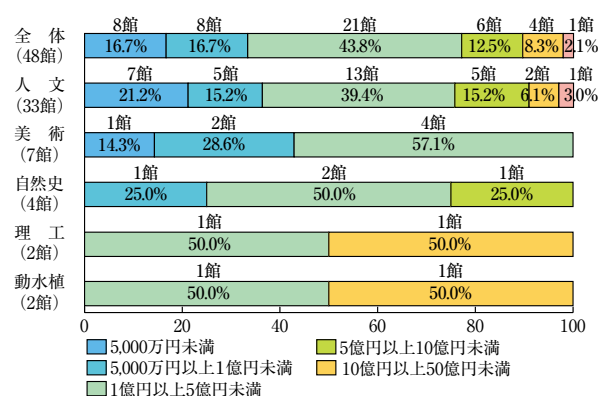


<表-3> 館種別の総工事費 (最大値、最小値、平均値、中央値)

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (48館)	8,628,098	6,195	572,885	169,000
人文 (33館)	8,628,098	6,195	609,589	144,000
美術 (7館)	435,000	18,000	180,429	104,000
自然史 (4館)	580,000	80,000	286,431	242,862
理工 (2館)	1,400,000	223,337	811,669	811,669
動水植 (2館)	3,000,000	350,000	1,675,000	1,675,000

※ () 内は有効データ館数 ※ 単位は千円

<図-10> 館種で見る総工事費別開設博物館数の比率



<表-4> 設立主体別の総工事費 (最大値、最小値、平均値、中央値)

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (48館)	8,628,098	6,195	572,885	169,000
国 (4館)	580,000	100,000	324,875	309,750
都道府県 (2館)	8,628,098	506,018	4,567,058	4,567,058
市・区 (24館)	3,600,000	6,415	458,327	164,500
町・村 (6館)	1,500,000	44,000	358,304	156,485
法人 (11館)	1,400,000	6,195	342,018	104,000
個人・その他 (1館)	-	-	-	-

※ () 内は有効データ館数 ※ 単位は千円

■2014年度開設博物館の運営状況について

ここでは、職員の配置状況(総職員数、研究・学芸系職員数、事務・管理系職員数、常勤職員数、非常勤職員数)について集計した結果を報告します。

総職員数の比率を見ると、5人以下の施設が全体の52.2%を占めています。また、9人以下の施設は全体の82.6%に達します。一方、10人以上の職員を有する施設は全体の5分の1以下(17.4%)を示しています。総職員数の最大値は36人、最小値は1人、平均値は7.1人、中央値は5人でした。

研究・学芸系職員数の比率を見ると、1人もしくは2人の施設が全体の4分の1以上(28.9%)を占めています。また、研究・学芸系職員を配置していない施設は全体の半数近く(44.4%)を示しています。一方、10人以上の研究・学芸系職員を有する施設は4館でした。研究・学芸系職員数の最大値は25人、最小値は0人、平均値は2.5人、中央値は1人でした。

事務・管理系職員数の比率を見ると、1人、2人、3人の施設が全体の半数近く(48.9%)を占めています。事務・管理系職員を配置していない施設は全体の4.4%でした。ともに前回調査の比率を下回っています。一方、「5～9人」の施設数・比率はともに前回調査の値を上回りました。10人以上の事務・管理系職員を有する施設は全体の4.4%でした。事務・管理系職員数の最大値は36人、最小値は0人、平均値は4.7人、中央値は3人でした。平均値、中央値ともに研究・学芸系職員の値を上回っています。

常勤職員数の比率を見ると、1人もしくは2人の施設が全体の3分の1以上(36.4%)を占めています。常勤職

員を配置していない施設の比率は全体の20.5%でした。一方、10人以上の常勤職員を有する施設は僅か3館に過ぎませんでした。常勤職員数の最大値は21人、最小値は0人、平均値は3.4人、中央値は2人でした。

非常勤職員数(嘱託、臨時職員を含む)の比率を見ると、1人、2人、3人の施設が全体の43.2%を占めています。非常勤職員を配置していない施設は全体の18.2%でした。一方、10人以上の非常勤職員を有する施設は僅か3館に過ぎませんでした。非常勤職員数の最大値は21人、最小値は0人、平均値は3.5人、中央値は2人でした。

<表-5> 総職員数の比率

総職員数	回答館	構成比
1人	4館	8.7%
2~3人	13館	28.3%
4~5人	7館	15.2%
6~7人	10館	21.7%
8~9人	4館	8.7%
10~15人	4館	8.7%
16~20人	1館	2.2%
21人以上	3館	6.5%
全体	46館	100.0%

<表-6> 研究・学芸系職員数の比率

研究・学芸系職員数	回答館	構成比
0人	20館	44.4%
1人	10館	22.2%
2人	3館	6.7%
3人	5館	11.1%
4人	1館	2.2%
5~9人	2館	4.4%
10~20人	3館	6.7%
21人以上	1館	2.2%
全体	45館	100.0%

<表-7> 事務・管理系職員数の比率

事務・管理系職員数	回答館	構成比
0人	2館	4.4%
1人	6館	13.3%
2人	12館	26.7%
3人	4館	8.9%
4人	3館	6.7%
5~9人	16館	35.6%
10~20人	1館	2.2%
21人以上	1館	2.2%
全体	45館	100.0%

<表-8> 常勤職員数の比率

常勤職員数	回答館	構成比
0人	9館	20.5%
1人	9館	20.5%
2人	7館	15.9%
3人	6館	13.6%
4人	2館	4.5%
5~9人	8館	18.2%
10~20人	2館	4.5%
21人以上	1館	2.3%
全体	44館	100.0%

<表-9> 非常勤職員数の比率

非常勤職員数	回答館	構成比
0人	8館	18.2%
1人	10館	22.7%
2人	8館	18.2%
3人	1館	2.3%
4人	5館	11.4%
5~9人	9館	20.5%
10~20人	2館	4.5%
21人以上	1館	2.3%
全体	44館	100.0%

2014年度開設博物館一覧表

丹青研究所調べによる2014年度(2014年4月~2015年3月)の主な開設博物館リストです。この中には、旧施設を発展的に解消して移転新築、取り壊し新築した館も含まれています。

館名	開設年月	所在地
木古内町郷土資料館 [いかりん館]	2015.03	北海道十勝郡木古内町鶴岡74-1
北広島市エコミュージアムセンター知新の駅	2014.07	北海道北広島市広葉町3-1 北広島市広葉交流センター内
古趣 北乃博物館	2014.04	北海道登別市登別東町2-27-3
北斗市郷土資料館	2014.11	北海道北斗市本町1-1-1 北斗市総合分庁舎2階
北海道家庭学校博物館	2014.09	北海道紋別郡遠軽町留岡34
種差海岸 インフォメーションセンター	2014.07	青森県八戸市鮫町棚久保14-167
十和田ビジターセンター	2014.04	青森県十和田市奥瀬十和田湖畔休屋486
金ヶ崎要害歴史館	2014.06	岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根達小路2-1
志波城古代公園案内所	2015.03	岩手県盛岡市上鹿妻五兵衛新田47-11
もりおか町家物語館	2014.09	岩手県盛岡市鉾屋町10-8
塩壺市杉村惇美術館	2014.11	宮城県塩壺市本町8-1

小坂鉄道レールパーク	2014.06	秋田県鹿角郡小坂町小坂釜山古川20-9
鶴岡市立加茂水族館 (クラゲドリーム館)	2014.06	山形県鶴岡市今泉大久保657-1
関根正男記念館	2014.11	福島県白河市明戸98-2
相馬市郷土蔵	2014.07	福島県相馬市中村北町51-1
相馬市歴史資料収蔵館	2014.07	福島県相馬市中村北町51-1
はじまりの美術館	2014.06	福島県郡山猪苗代町新町4873
結城蔵美館	2014.05	茨城県結城市結城1330
金谷ホテル歴史館	2015.03	栃木県日光市本町1-25
久保記念観光文化交流館	2014.10	栃木県真岡市荒町1105-1
サンバレー美術館	2014.09	栃木県那須郡那須町湯本203 ホテルサンバレー那須内
とちぎ歌麿館	2014.10	栃木県栃木市万町7-1
日光東照宮宝物館	2015.03	栃木県日光市山内2301
生方記念文庫	2014.07	群馬県沼田市上之町199-1
大室はにわ館	2014.11	群馬県前橋市西大室町2510 大室公園民家園内
重監房資料館	2014.05	群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533
上武大学絵手紙ギャラリー& ミュージアム	2014.05	群馬県高崎市新町270-1 高崎キャンパス2号館

高崎市山田かまち美術館	2014.04	群馬県高崎市片岡町3-23-5	小矢部市大谷博物館	2014.10	富山県小矢部市水落35
キュービータマゴ たまご資料館	2015.03	埼玉県飯能市西台3-4 キュービータマゴ 東京工場	黒部市地域観光ギャラリー	2015.03	富山県黒部市若栗3212-1
新光苑美術館	2014.05	埼玉県熊谷市小島527	シーラカンス 毛利武士郎記念館	2015.03	富山県黒部市栗寺41
名栗くらしの展示室	2014.06	埼玉県飯能市上名栗3125-1 名栗地区行政センター2階	輪島キリコ会館	2015.03	石川県輪島市マリンタウン6-1
旭市防災資料館	2014.07	千葉県旭市萩園1437 いいおか潮騒ホテル東側 隣接	輪島塗会館	2015.03	石川県輪島市河井町24-55
アロハガーデンたてやま	2014.09	千葉県館山市藤原1497	福井県ふるさと文学館	2015.02	福井県福井市下馬町51-11
宇宙ミュージアム 『TeNQ(テンキュー)』	2014.07	東京都文京区後楽1-3-61 東京ドームシティ 黄色いビル6階	昭和町風土伝承館 杉浦醫院	2014.04	山梨県中巨摩郡昭和町西条新田 850-1
キュービー マヨテラス	2014.06	東京都調布市仙川町2-5-7 仙川キューボート	上田市立美術館	2014.10	長野県上田市天神3-15-15
コープ商品ミュージアム	2014.04	東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ 1階、2階	岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	2014.08	長野県岡谷市郷田1-4-8
実践女子学園 香雪記念資料館	2014.05	東京都渋谷区東1-1-49 実践女子大学創立120周年記念館1階	木曾山林資料館	2014.05	長野県木曾郡木曾町新開4236 木曾青峰高校新開キャンパス内
自転車文化センター	2014.04	東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル1階	心の花美術館 in 上田	2014.04	長野県上田市中央2-7-23
順天堂大学 日本医学教育歴史館	2014.04	東京都文京区本郷2-1-1 センチュリータワー17階 北	さらしな・おぼすて文学館	2014.09	長野県千曲市八幡焼捨4993-1 焼捨観光会館
東京農業大学「美学の杜」	2014.04	東京都世田谷区桜丘1-1-1 世田谷キャンパス 農大アカデミアセンター1階	東洋計量史資料館	2014.11	長野県松本市埋橋1-9-18
中村屋サロン美術館	2014.10	東京都新宿区新宿3-26-13 新宿中村屋ビル3階	古い町並み美術館 山下清 原画展	2014.12	岐阜県高山市下三之町1-19
練馬区立石神井公園 ふるさと文化館 分室	2014.04	東京都練馬区石神井台1-33-44 練馬区立石神井松の風文化公園管理棟内	マネキン資料館	2014.07	岐阜県本巣市木知原175-1
瑞穂町郷土資料館 けやき館	2014.11	東京都西多摩郡瑞穂町駒形富士山 316-5	山岡駅かんでんかん 寒天資料館	2014.07	岐阜県恵那市山岡町田沢3058-4
三菱倉庫・ 江戸橋歴史展示ギャラリー	2014.10	東京都中央区日本橋1-19-1 日本橋ダイヤビルディング1階	伊豆高原象牙と石の彫刻美術館 〜ジュエルピア〜	2014.09	静岡県伊東市富戸1096-1
武蔵野市立 武蔵野ふるさと歴史館	2014.12	東京都武蔵野市境5-15-5	駿府博物館	2015.01	静岡県静岡市駿河区登呂3-1-1 静岡 新聞放送会館別館2階
明星資料展示室	2014.10	東京都日野市程久保2-1-1 明星大学 資料図書館2階	竹島ファンタジー館	2014.08	愛知県蒲郡市竹島町28-14
目白美術館	2014.07	東京都豊島区目白3-9-9 徳川ビレッジ26号棟	水の歴史資料館	2014.09	愛知県名古屋市中千種区月ヶ丘1-2-2
吉徳これくしょん展示室	2014.09	東京都台東区浅草橋1-9-14 吉徳 浅草橋本店4階	万協フィギュア博物館	2014.05	三重県多気郡多気町仁田725-1 万協製菓株式会社 第三工場内
立教学院展示館	2014.05	東京都豊島区西池袋3-34-1 メーザライブラリー記念館 (旧図書館旧館)2階	三重県総合博物館 (MieMu: みえむ)	2014.04	三重県津市一身田上津部田3060
箱根ジオミュージアム	2014.04	神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1251 大涌谷くろたまご館1階	四日市公害と環境未来館	2015.03	三重県四日市市安島1-3-16
日吉の森庭園美術館	2014.11	神奈川県横浜市港北区下田町 3-10-34	度会町ふるさと歴史館	2014.07	三重県度会郡度会町中之郷1025 旧小川郷小学校内
蒔絵工房 NAMIKI	2015.01	神奈川県平塚市西八幡1-4-3 株式会社パイロットコーポレーション 平塚事業所内	三井寺文化財収蔵庫	2014.10	滋賀県大津市園城寺町246
おもしろしんぶん館	2014.09	新潟県新潟市西区善久772-2 新潟日報社黒崎本社(メディアポート)内	京都大学 医学部資料館	2014.08	京都府京都市左京区吉田近衛町 京都大学大学院医学研究科・医学部構内
佐渡市立佐渡博物館	2014.04	新潟県佐渡市八幡2041	水原房次郎蔵美術館	2014.10	京都府宇治市白川川上り谷74 藤川市左衛門邸内
三条市水防学習館	2014.05	新潟県三条市上須頃167-1	今東光資料館	2014.04	大阪府八尾市本町2-2-8 八尾図書館3階
篠田桃紅作品館	2014.10	新潟県新潟市中央区 学校町通2-5245-4	さかい利晶の杜	2015.03	大阪府堺市堺区宿院町西2-1-1
白壁兵舎広報資料館	2014.05	新潟県新発田市大手町6-4-16 陸上自衛隊新発田駐屯地	常翔歴史館	2014.05	大阪府大阪市旭区大宮5-16-1
長岡市立科学博物館	2014.04	新潟県長岡市幸町2-1-1 さいわいプラザ1階	アガベ大鶴美術館	2014.09	兵庫県西宮市甲山町53-4
長岡藩主 牧野家史料館	2014.06	新潟県長岡市幸町2-1-1 さいわいプラザ3階	関西学院大学博物館	2014.09	兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
新潟市津波八一記念館	2014.08	新潟県新潟市中央区万代3-1-1 メディアシップ5階	神戸どうぶつ王国	2014.07	兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-9
見附市大風伝承館	2014.11	新潟県見附市今町1-7-28	新宮 晋 風のミュージアム	2014.06	兵庫県三田市尼寺968 有馬富士共生センター横
世界一かわいい美術館	2015.03	富山県富山市水橋伊勢屋257	竹中大工道具館	2014.10	兵庫県神戸市中央区熊内町7-5-1
			淡山疏水・東播用水博物館	2015.01	兵庫県加古郡稲美町野寺84-5
			藤本義一の書斎 〜義一ギャラリー	2014.04	兵庫県芦屋市奥池11-10
			本州最南端 潮風の休憩所 展示室	2014.07	和歌山県東牟婁郡串本町潮岬 望楼の芝生内
			塩谷定好写真記念館	2014.04	鳥取県東伯郡琴浦町赤崎1568
			西田水上神社宝物館「宝暦館」	2014.09	島根県大田市温泉津町西田
			総社吉備路文化館	2014.04	岡山県総社市上林1252
			世羅町世羅郷土民俗資料館	2014.07	広島県世羅郡世羅町重永57

蛭遊苑 長府製作所記念館	2014.06	山口県下関市長府侍町2-6-45	多良木町埋蔵文化財等センター (古代の風 黒の蔵)	2014.07	熊本県球磨郡多良木町黒肥地裏田 4282
徳島県戦没者記念館 -あしたへ-	2014.10	徳島県徳島市雑賀町東開21-1 徳島県護国神社内	御船町恐竜博物館	2014.04	熊本県上益城郡御船町御船995-6
讃岐漆芸美術館	2014.04	香川県高松市上福岡町2017-4	臼杵市歴史資料館	2014.04	大分県臼杵市市浜808-1
葉佐池古墳公園 ガイダンス棟	2014.07	愛媛県松山市北梅本町甲2455	九州芸術の杜 後藤純男リトグラフ館	2014.05	大分県玖珠郡九重町田野 1712-707
四万十ヤイロチョウの森 ネイチャーセンター	2014.07	高知県高岡郡四万十町大正31-1	深田光霊記念吟詠ミュージアム 詩聲館	2014.04	大分県竹田市竹田1987-4
福岡城・鴻臚館案内処 (三の丸スクエア)	2014.11	福岡県福岡市中央区城内2-5 (旧舞鶴中学校跡地)	国立療養所星塚敬愛園 社会交流会館「星塚の歴史」	2014.12	鹿児島県鹿屋市星塚町4204
山本健吉資料室	2014.10	福岡県八女市本町536-3 八女市立図書館本館2階	薩摩川内市 消防局防災研修センター	2014.08	鹿児島県薩摩川内市中郷町5031-1
浦上キリシタン資料館	2015.01	長崎県長崎市平和町11-19	薩摩藩英国留学生記念館	2014.07	鹿児島県いちき串木野市羽島4930
長崎市旧香港上海銀行長崎支店 記念館 長崎近代交流史と孫文・ 梅屋庄吉ミュージアム	2014.04	長崎県長崎市松が枝町4-27	広田遺跡ミュージアム	2015.03	鹿児島県熊毛郡南種子町平山2571
長崎大学医学ミュージアム	2014.05	長崎県長崎市坂本1-12-4 長崎大学坂本キャンパス1内	山中貞則顕彰館	2014.04	鹿児島県曾於市末吉町深川5921-1
菊池飛行場ミュージアム	2014.08	熊本県菊池市泗水町豊水3381	沖縄市音楽資料館 おんがく村	2014.08	沖縄県沖縄市中央1-7-3
			与那原町立 軽便与那原駅舎展示資料館	2015.01	沖縄県島尻郡与那原町与那原 3148-1

特集：2014年度リニューアル博物館情報

丹青研究所調べによる、2014年度(2014年4月～2015年3月)にリニューアルを実施した全国の博物館数は199館です。ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2014年度のリニューアル博物館について傾向を示し、都道府県別のリニューアル博物館リストを掲載します。

■2014年度リニューアル博物館の傾向

近年(2010～2014年度)の調査結果をもとに推移を見ると、143館→155館→159館→170館→199館となり、徐々にリニューアル博物館の数は増えていることがわかります。確かにリニューアル博物館の数が年々増えていることは事実ですが、2014年度のリニューアル博物館の数が前年度から大きく増加しているのは、以前にも増して博物館がインターネット(HPやSNS、ネットニュース)などを介して多くの情報を発信するようになってきていることが本調査に影響していると考えています。

施設・設備の老朽化や新たな機能・役割への対応、開館後の資料・情報・研究成果の蓄積に基づいた更新、時代に即した展示内容・手法の採用、周年事業や記念年にあわせた取り組みなど、その内容や要因は様々です。今回の調査では、開館以来初の改修・改装や、数十年ぶりの改修・改装という施設が多く見られました。また、施設のテーマや特徴を明確化するためのリニューアルも見られました。2014年度は、2015年3月の北陸新幹線開業に向けてリニューアルに取り組む新潟県・富山県・石川県・福井県の施設が幾つも見られました。阪神・淡路大震災20周年や戦後70年を意識したリニューアルに取り組んだ施設、ユネスコ無形文化遺産登録を機にリニュー

アルした施設、世界文化遺産・世界自然遺産登録を目指してリニューアルを行った施設なども見られました。

2014年度リニューアル博物館には、札幌市青少年科学館(北海道)、さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館-(栃木県)、東京国立博物館、東京都江戸東京博物館、東京都庭園美術館、府中市郷土の森博物館(東京都)、新潟市新津鉄道資料館(新潟県)、フォッサマグナミュージアム(新潟県)、福井県立若狭歴史博物館、名古屋海洋博物館(愛知県)、四日市市立博物館(三重県)、京都国立博物館、白沙村荘 橋本関雪記念館(京都府)、大阪府立弥生文化博物館、歴史に憩う橿原市博物館(奈良県)、高知県立美術館、南島原市有馬キリシタン遺産記念館(長崎県)などが見られました(後掲の「2014年度リニューアル博物館一覧表」をご参照ください)。

各館のリニューアル内容は、後掲の一覧表に記載しています。

■地方別に見たリニューアルの傾向

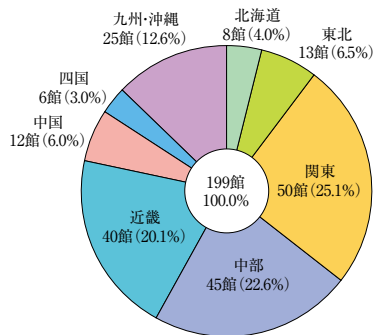
新設の博物館と同様、関東・中部が多いことがわかります。近畿を含めた3つの地方で全体の7割近くに達しています。前回報告と比べると、近畿(24館→40館)、関東(41館→50館)のリニューアル博物館の数が多く見られました。

新設・リニューアルを合わせると関東は85館、中部は75館を記録し、年度内にかかなり多くの施設が新たな姿を示していることがわかります。

都道府県別では、24館の東京都を筆頭に、兵庫県が14館、愛知県が11館、北海道、大阪府が各8館、神奈川県、静岡県、京都府、熊本県が各7館、石川県、福井県、岡

山県が各6館、群馬県、埼玉県、千葉県、富山県が各5館となっています。一方、長野県の2館は例年に比べて少ない結果となっています。今回の調査では、山形県、鳥取県、徳島県、香川県の博物館におけるリニューアル状況を確認することはできませんでした。

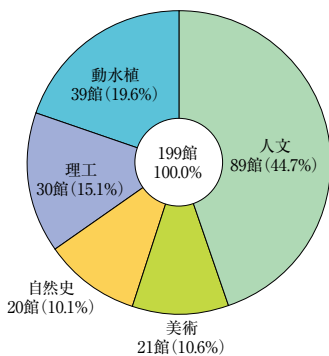
<図-1> 地方別リニューアル博物館数の比率



■館種別に見たリニューアルの傾向

全国に施設数の多い「人文」が、ここでも全体の44.7%を占めています。次に動物園、水族館などの「動水植」が多く、全体の19.6%を示しています。前回報告と比べると、「自然史」「理工」「動水植」の比率が増えています。

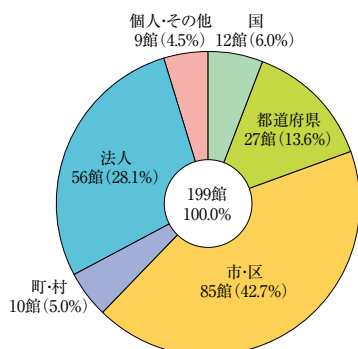
<図-2> 館種別リニューアル博物館数の比率



■設立主体別に見たリニューアルの傾向

新設の博物館と同様、「市・区」「法人」の比率は高く、全体の7割以上を占めています。「市・区」「法人」は施設数も前回報告より大きく増えています。前回報告と比べると、「町・村」「法人」「個人・その他」の比率が増えています。

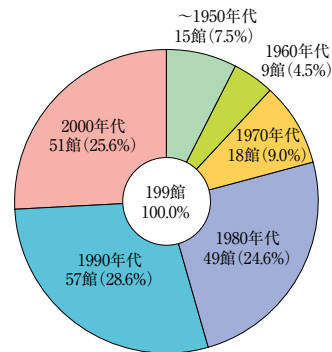
<図-3> 設立主体別リニューアル博物館数の比率



■開館年代別に見たリニューアルの傾向

図-4でわかるように「1980年代」「1990年代」「2000年代」開館の博物館で全体の約8割を示しています。2014年度は、2013年度に比べて「1980年代」「2000年代」開館の博物館で多くのリニューアルを行っていたことがわかりました。

<図-4> 開館年別リニューアル博物館数の比率



■リニューアルの形態について

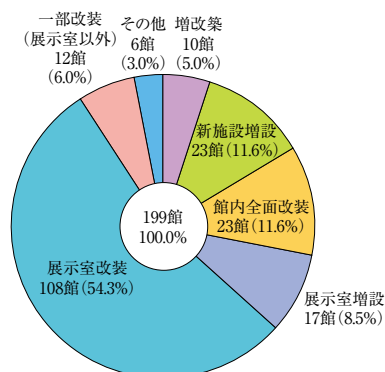
各館のリニューアル内容をもとに、「増改築」「新施設増設」「館内全面改装」「展示室増設」「展示室改装」「一部改装(展示室以外)」「その他」に分けて分析を試みました。なお、同一年度に複数のリニューアル(取り組み)を実施した館については、主要な内容を基に振り分けています。

集計した結果、「展示室改装」が最も多く、全体の半数以上を示しています。展示の改装が含まれている「館内全面改装」「展示室増設」を合わせると、全体の74.4%に該当します。

前回報告と比べると、「新施設増設」「館内全面改装」「展示室増設」「展示室改装」の比率が増えています。なお、本報告では、「移転新築施設」や「取り壊し新築施設」を新たな開設として扱っています。リニューアルの中で新施設増設や館内全面改装といった比較的大きな改修を行っている施設が増えていることは、近年の顕著な傾向と考えています。

なお、「その他」には、施設の耐震化やバリアフリー対応、設備の改修に関する事例を含めています。

<図-5> リニューアルの形態の比率



2014年度リニューアル博物館一覧表

<p>アルテピアッツァ美咲 [北海道美咲市] 2014.10</p> <p>美咲市出身の彫刻家・安田侃氏が選んだ美術書をそろえた専用スペース「アルテ文庫」を開設。ミケランジェロやヘンリー・ムア、イサム・ノグチなど著名な彫刻家の作品集や図録など約100冊を集めた。NPO法人アルテピアッツァびばいが認定NPO法人へステップアップしたことを記念して、ギャラリー（木造校舎2階）に設置</p>
<p>帯広市児童会館 [北海道帯広市] 2014.11</p> <p>開館50周年を機に科学展示室をリニューアル。「見て・触れて・ためす」をテーマに、参加体験型の展示を設置。「とかちの自然」「とかちのエネルギー」「とかちと宇宙」「暮らしと科学」「地球のようす館」の5つのコーナーで構成。展示品25点のうち22点を入れ替えた。同展示室の更新は2002年以来12年ぶり</p>
<p>札幌市青少年科学館 [北海道札幌市] 2014.04・2015.03</p> <p>2014年4月、「天文・地球科学コーナー」を新設。3階に、国際宇宙ステーション（ISS）の日本実験棟「きぼう」を再現した船内実験室を設置。2階のプラネタリウムの上部ドーム（直径約20m、高さ4m）に地球の北半球の衛星写真などを掲示し、ドームの周囲には「宇宙、太陽系、地球、北海道」の4つの展示コーナーを配した。自分の誕生日など好きな日付の天体位置を画面に表示できる「デジタル宇宙旅行」や「触れる地球」、「地球エレベーター」などの展示装置を新設し、道内の活火山に関する展示を拡充した。2015年3月、「力学コーナー」「交通コーナー」の展示物を整備し、新たに「5つの力学コーナー」としてリニューアル。「海に、そらに。」に「街に。」「より速く、もっと速くに。」をテーマに、乗り物などの展示物を配置。2016年3月に開業する北海道新幹線の実物大車両模型も展示した</p>
<p>札幌市埋蔵文化財センター [北海道札幌市] 2014.04</p> <p>埋蔵文化財展示室を23年ぶりにリニューアル。入口正面には、それまでレプリカで展示していた約2300年前の縄文文化晩期の土偶の実物を配置。改装前、展示室の中央にあった大きな展示壁面は撤去し、旧石器文化や縄文文化、続縄文文化、擦文文化など、時代ごとに札幌市内で出土した土器や墓の副葬品などを紹介。時代の流れとともに生活様式が変わっていく様子がわかるようにした</p>
<p>太陽の森 デイマシオ美術館 [北海道新冠町] 2014.04</p> <p>館内を改装。2階展示室やカフェスペースなどを新設。それまで未公開だったデイマシオ作品約20点も新たに展示した。2階展示室には「心象画家」と称される河島真規子氏の油絵画を展示。カフェスペース（約30席）では美術書が閲覧できる。中2階には絵本約350冊を置いて子どもが楽しめるコーナーも備えた</p>
<p>美幌博物館 [北海道美幌町] 2015.02</p> <p>冷暖房設備を改修するとともに、第3展示室（美術展示室）をリニューアル。美術展示室の壁の配置を大幅に変更。天井のライトを増やし、室内に長椅子も置いた。美幌町在住の画家・横森政明氏のコーナー、国内外の作家コーナーなど4つのコーナーを設けた。江戸後期の日本画家・蟬崎波響の掛け軸「エゾウサギの図」は、改修に伴い新たに全館の温度、湿度を細かく設定できるようになったことから常設展示が実現した</p>
<p>ロイズチョコレートワールド [北海道千歳市] 2014.07</p> <p>「ミュージアム」、「ショップ」、「ファクトリー」の3つのエリアのうちショップエリアのスペースを拡張。オリジナル商品を販売するショップエリアを101㎡から200㎡に増床した</p>
<p>稚内市青少年科学館 [北海道稚内市] 2014.04</p> <p>1階に環境展示コーナーを新設。近未来の稚内をイメージした模型の中で未来の生活環境などを体験できる「ようこそスマートコミュニティへ」や「地球温暖化研究室」、「再生可能エネルギー」の展示を新たに設置。隣接する市ノジャップ薬流水族館と入口を共通にし、入館料の一元化を図った</p>
<p>八戸市南郷歴史民俗資料館 [青森県八戸市] 2014.04</p> <p>昭和時代をテーマに常設展示を改装。館内に、新たに昭和の町並みや路地を再現。戦時中の資料や、戦後のテレビ、洗濯機など初期の電化製品や日用品などを展示し、昭和の生活の変遷を紹介。展示資料は以前より限定し、テーマごとに配置した。また、おはじきやめんこなど、昔ながらのおもちゃで遊べるコーナーも新たに設けた</p>
<p>弘前市立博物館 [青森県弘前市] 2014.04</p> <p>開館以来初の大規模改修を実施。前川國男設計の建築意匠を保持しながら、資料の保存・展示の環境を改善し、省エネルギー化にも配慮した。展示ケースのガラスを透過性・透明度の高い「ミュージアムガラス」に変更。館内照明の大部分とスポットライトをLED化。展示室・展示ケース内の全体照明はHF型蛍光灯を使用。空調設備の改善を図り、展示室と展示ケースを個別に空調できるように整備した。ほかに、エントランスの手すりやベビーベッドの設置、多目的トイレの最新化など、市民からの要望を基に改修を行った</p>
<p>赤沢郷土資料館 [岩手県紫波町] 2014.11</p> <p>赤沢郷土資料館別館がオープン。本館の向かいにある岩手中央農協の施設を活用。地元住民から養蚕や織物の道具約50点の提供を受け、本館展示品や収集品を含めた計約70点を展示</p>
<p>久慈琥珀博物館 [岩手県久慈市] 2014.04</p> <p>新たな採掘体験場をオープン。採掘体験の人気の高まりを受けて、それまでの琥珀採掘体験場の隣に新設。以前より約40㎡広い200㎡体験場を整備。最大約100人が利用可能となった</p>
<p>御所野縄文博物館 [岩手県一戸町] 2014.04</p> <p>開館以来初めて展示内容を刷新。第2展示室では「プロジェクションマッピング」を導入した展示を展開。室内全体に投影する迫力ある映像と3D音響によって、来館者を縄文の世界に誘う。新たな展示は「御所野縄文ワールド」と題し、御所野遺跡を舞台にした縄文時代の四季や暮らし、儀式など縄文人の精神世界までを11分間の映像にもとめた。博物館の常設展示で大規模なプロジェクションマッピングを導入するのは全国初試み。開館後11年間の発掘調査で発見した出土資料の展示も倍増させた。展示室への導入アナウンスは英、仏、中国語など6カ国に対応している。第1展示室「焼けた住居の発見」では、展示室の床下に約4000年前の焼失住居の出土状況を示し、発掘の様子と復元の工程を映像で紹介。第3展示室は「火とまつり」をテーマに同町の「時前遺跡」などの出土品を展示している</p>
<p>八幡平市松尾鉱山資料館（旧：八幡平市松尾歴史民俗資料館） [岩手県八幡平市] 2014.04</p> <p>市松尾歴史民俗資料館の展示を改装し、市松尾鉱山資料館に館名を改称してオープン。それまでは旧松尾村地域の考古、民俗及び松尾鉱山に関する資料を保存・展示していたが、松尾鉱山に関する資料の保存・展示に特化した。東洋一の硫黄鉱山と呼ばれた当時の姿を伝えている</p>

<p>気仙沼リアスシャークミュージアム [宮城県気仙沼市] 2014.04</p> <p>東日本大震災からの復旧工事を終えて約3年ぶりにオープン。復旧にあたって、ジンベエザメの縮小模型や市内の被災状況を映像や写真で紹介するコーナーを新たに設置。館内は、震災前から人気だった各種サメの生態に関する展示を行うシャークゾーン、震災被害の状況や気仙沼の今、そして「未来に向けての思い」を映像で紹介する「震災の記憶」ゾーン、気仙沼に向けて寄せられたメッセージを紹介する「絆」ゾーン、甚大な被害から復活し、再び活気を取り戻した気仙沼の海と港の今を伝える「海と生きる」ゾーンで構成</p>
<p>スリーエム仙台市科学館 [宮城県仙台市] 2014.04・2014.08・2014.11</p> <p>2014年4月、3階の生活系展示室ロボットコーナーに新展示「仙台高専生が取り組んだ競技ロボット」を設置。2011年全国高専ロボットコンテストにおいてロボット大賞及び優勝を果たした「OR（オーアル）」を科学館仕様にして展示。2014年8月、4階の理工系展示室に「再帰性反射の原理模型」の常設展示を設置。スリーエムジャパン株式会社との連携展示。惑星探査機はやぶさ2に使われたターゲットマーカー展示、止まれ標識展示、三面鏡展示で構成。2014年11月、エントランスホール上部及び3階生活系展示室フライトコーナーに、学生サークル東北大学ウインドノーツの協力による「人力飛行機」の展示を設置。人力飛行機（人間コンテスト2011年、2012年大会優勝機の複製型）を復元し、エントランスホール吹き抜け上部に吊り下げ展示。機体周囲の4階通路には解説パネル及び映像装置を設置して、人力飛行機に関する説明やフライトシーンなどを紹介。3階生活系展示室には、関連展示「人力飛行機のつくり」のコーナーを設けた</p>
<p>秋田市大森山動物園（あきぎんオモリノ森） [秋田県秋田市] 2014.04・2014.07</p> <p>2014年4月、ツキノワグマの展示場をリニューアル。展示場の厚さ約20cmのコンクリート壁に、直径15～10cmの穴10個を開け、来場者がのぞき込み、クマを間近に観察できるようにした。穴は直径10.5cmの見学用8つ、直径5cmの餌やうり用2つを用意。見学用の穴には、空気穴を開けた透明なアクリル板をかぶせ、クマの手が人に届かないようにした。穴の高さは地上60cm～1.4mで、子どもから大人までが見学できるようにした。2014年7月、「ビジターセンター」をオープン。同センターは鉄骨平屋建てで延床面積約740㎡。正面ゲートを解体するなど、来園者の入退園口周辺を改修して整備。大森山一帯を訪れた人たちが自由に利用できる「公園エリア」と、来園者対象の「動物園エリア」で構成。公園エリアには約70人を収容できる休憩コーナーをはじめ、物販店や飲食店などを配置。隣接する展望テラスは一度に約30人が利用可能。動物園エリアには多目的コーナー、周囲の取り組みをデジタルサイネージやパネルで伝える情報コーナー、キッズコーナーなどが整備された。チケット売場から大屋根広場を通り、園内へ進むスロープも設置。新設したスロープ沿いにはミニアキヤットなどを展示する「ワエルカ動物舎」を整備した。それまでは150㎡ほど離れていたバスターミナルを同センター前に移すなど、来園者の利便性を向上させた</p>
<p>大館郷土博物館 [秋田県大館市] 2014.04</p> <p>「子ども科学室」を開館以来初めて改装。職員の手作りで太陽系8惑星の立体模型などを制作し、見て楽しむ展示を実現。子ども科学室は、宇宙、生命、地球などのコーナーで構成。秋田地方気象台が実際に使用した高層気象観測器や人体、生物の骨格模型なども新たに展示した</p>
<p>北秋田市阿仁熊牧場（くまくま園） [秋田県北秋田市] 2014.07</p> <p>1990年に開園した阿仁熊牧場が愛称を「くまくま園」にしてリニューアルオープン。ヒグマ専用の飼育展示施設を新設。強化ガラス越しに、運動場で遊ぶヒグマを間近で観察できる</p>
<p>安積歴史博物館（旧福島県尋常中学校本館） [福島県郡山市] 2014.09</p> <p>東日本大震災で被害を受けて閉館していた国指定重要文化財の同館が再オープン。建物内外装の修復工事が2013年に終わって仮オープンしていたが、資料展示も復活して本格的に再開した。再開にあたり、同館（旧福島県尋常中学校本館）建築に関する資料室や多目的ギャラリーを新設。資料室では、建物の図面や装飾品の写真、瓦などを展示</p>
<p>白河市歴史民俗資料館 [福島県白河市] 2014.07</p> <p>展示スペースを拡張し、平常展示「白河の歴史と文化」として新たに旧表郷、大信、東3村の資料を加えてリニューアルオープン</p>
<p>常陸太田市郷土資料館梅津会館 [茨城県常陸太田市] 2014.11</p> <p>耐震補強工事・修復再生工事・増築工事からなる改修工事を行い、リニューアルオープン。耐震補強工事は、2009年の総合劣化調査で指摘された耐震強度不足を補うために実施。修復再生工事は、梅津会館（国登録有形文化財）の建物として本来の魅力を引き出すために、竣工当初（1936年）の姿に復原。郷土資料館（1980年、常陸太田市郷土資料館としてオープン）への改修時に設置されたガラス展示ケースを全て撤去し、1階は大石石カウンターや照明を復元して役場事務室の時代に戻し、かつて議場として使われた2階会議室は隠れていた議壇を表に出して議場としての空間を復元した。展示スペースを確保するため、延床面積220㎡の鉄骨造り2階建て新館を同会館の裏手に増築した</p>
<p>さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館- [栃木県さくら市] 2015.03</p> <p>館内を全面リニューアル。収蔵品が増えて収蔵や展示のスペース確保が課題となっていたため、建物を増築して収蔵庫を増設。常設展示は「さくら市の歴史と文化」をテーマに改装。それまでなかった「自然のコーナー」を加えるなど、「自然・歴史・文化展示室」の内容を充実させた。デジタルデータコーナーでは、さくら市の動植物やさくら市の近代化などを画面で見ることができ、また、旧氏家町に比べて少なかった旧喜連川町の紹介コーナーも充実した。既にあった「鑑展示室」はより見やすく、わかりやすい展示にリニューアル。市民から要望が寄せられていた、市民が芸術作品を自由に発表できる「市民ギャラリー」を新設した。入館者が勝山城跡をながめられる休憩スペースも設置</p>
<p>那須塩原市那須野が原博物館 [栃木県那須塩原市] 2014.04</p> <p>開館10周年を迎え、初めて常設展示をリニューアル。歴史に力点を置いていた従来の展示に加え、自然分野などのコーナーも充実させた。開館翌年の2005年1月に西那須野町、黒磯市、塩原町の3市町が合併して那須塩原市となったため、開館10周年を機に、拡大した新市の資料を取り入れた展示改装を行った。国指定重要文化財「那須疏水取水口」の2分の1規模をシンボルに据え、那須人車軌道の復元模型、開拓ジオラマシアター、華族農場と塩原御用邸のコーナー、カモシカやモリアオガエルの標本を加えた市内の自然に関する展示コーナー、タッチパネルを使い、クイズをはじめオリジナルのコンテンツを楽しめる「なはくデジタルミュージアム」などを設けた</p>
<p>那須どうぶつ王国 [栃木県那須町] 2014.04・2014.07</p> <p>2014年4月、レストランをリニューアル。王国タウンレストラン「ナステラス」を「ヤマネコテラス」に改称して、ツシマヤマネコの保護活動の一環として栽培されている「ツシマヤマネコ」を使用するレストランへリニューアルした。レストラン内ではツシマヤマネコについて学ぶパネル展示も実施。2014年7月、新施設「ペンギンビレッジ」をオープン。「ペンギンと水辺のどうぶつたち」をリニューアルして整備。屋内約180㎡と屋外約340㎡を一体化。3種類のペンギンのほか、上野動物園（東京都）から移ってきたウミズメの水鳥シツノメドリ（別名・ファン）などの水中の様子を観察できる水槽も整備された</p>
<p>伊香保 おもちゃと人形自動車博物館 [群馬県吉岡町] 2014.12</p> <p>英国の自動車「ミニ」を集めた「ミニ・ミュージアム（MINI MUSEUM）」をオープン。館内の一部を改装し、「ミニ・クーパー」を含め2000年までに製造・販売されていた約30台を展示</p>
<p>甘楽町歴史民俗資料館 [群馬県甘楽町] 2015.03</p> <p>歴史的風致形成建造物の旧有賀茶屋を改修して、甘楽町歴史民俗資料館別館としてオープン。土蔵建築の総2階建てで、瓦屋根に白漆喰壁、腰板張りの建物。延床面積は77.84㎡。館内では同町の歴史や文化に関する資料を展示している</p>
<p>桐生が岡動物園 [群馬県桐生市] 2014.04</p> <p>ヒツジやヤギ、カメなどの小動物とふれ合える「子どもどうぶつコーナー」がリニューアルオープン。2013年の開園60周年に合わせて改修。ガラス張りの展示棟一棟を新築し、中央部の池を動物の運動場に変えた。動物が逃げ出すのを防ぐため、網のフェンスも巡らせた</p>

<p>下仁田町歴史館 [群馬県下仁田町] 2014.04</p> <p>常設展示の改装と空調設備工事を実施。世界文化遺産「荒船風穴」をより詳しく紹介する展示に改装。荒船風穴の展示コーナーはそれまでの2倍の広さに拡張。1階にあった「下仁田戦争」のコーナーを2階に移し、1階では荒船風穴の展示に力を入れた。換装時のゾラマを中心に、多くの写真や文獻を並べて産業・自然・文化といった多角的な観点で紹介している</p>
<p>向井千秋記念子ども科学館 [群馬県館林市] 2014.07</p> <p>市制60周年と、向井千秋氏の宇宙飛行20周年を記念してプラネタリウムをリニューアル。開館時から23年間使用した光学式の投影機を、デジタルシステムに交換。全天周デジタル映像システム (SUPER MEDIAGLOBE II-4K) を導入し、4K映像を投映することが可能となった。地上から見える星空ばかりでなく宇宙から見た星空も再現することができる。音響も5.1chサウンドシステムに臨場感を高めた。ドーム内照明はLED投光器に変更し、明るさを確保しながら省エネルギー化を実現した</p>
<p>加須未来館 [埼玉県加須市] 2015.03</p> <p>プラネタリウムをリニューアル。コニカミノルタプラネタリウム株式会社 (東京都) が開発した世界初の「単眼式超高解像度8K対応型デジタルプラネタリウム」を導入。それまでの光学式投映機約25倍の解像度に更新。プラネタリウムドーム内照明のLED化や5.1chサウンドシステムへの導入など、快適な視聴空間を整備。座席や壁、床の内装もリニューアル。70席だった座席数は、新設した親子席6席を含む計66席に変更された。加須市合併5周年記念事業の一環として行われた</p>
<p>埼玉県立近代美術館 [埼玉県さいたま市] 2014.04</p> <p>開館後30年以上が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいたため、施設の大規模改修を実施。常設展示室各室の内装と照明を一新。和式だったトイレも洋式の温水洗浄トイレに全面変更した。空調機器は全館で交換を行い、温湿度管理能力を高め、作品の保存環境を改善した。改修工事は今回が第1期で、2014年秋から第2期改修工事を行う</p>
<p>埼玉県立自然の博物館 [埼玉県長瀬町] 2014.12</p> <p>地学展示ホールの一部改修を実施。「埼玉の恐竜時代」コーナー (恐竜「ガリムス」の全身骨格レプリカを展示) を拡充、「第四紀化石」コーナーを新設するとともに、「秩父鉱山」コーナーの充実を図った</p>
<p>さいたま市青少年宇宙科学館 [埼玉県さいたま市] 2015.03</p> <p>「若田光一宇宙飛行士コーナー」を2階宇宙広場に開設。新たな常設展示コーナーの広さは約120㎡。若田氏が日本人として初めて船長を務めた国際宇宙ステーション (ISS) の寝室やトイレを再現した実物の模写では、実際に中に入って宇宙飛行士の生活を疑似体験することもできる</p>
<p>秩父まつり会館 [埼玉県秩父市] 2015.03</p> <p>開館以来初の大規模リニューアルを3か年で推進。1年目の今回は、「体験・体感」をテーマにして、2階展示室にミニシアターなどを新たに設置。2階展示室正面に県内最古となる室町時代に製作されたみこし (県指定有形文化財) を展示したほか、英語表記も入れたパネル14枚を加えた。ミニシアターでは、8分間の映像を日・英・中・韓の4か国語で流すことができる。太鼓や花火の映像に合わせて床が振動して、映像の最後には下から風が噴出される仕掛けによって、「秩父夜祭」の雰囲気を感じられる体感型シアターに整備した。外壁のサイン設置も行った</p>
<p>稲毛民間航空記念館 [千葉県千葉市] 2014.04</p> <p>常設展示をリニューアル。それまでは「日本の民間航空機の変遷」をテーマにした展示を行っていたが、地元稲毛海岸の民間航空の歴史を中心とした内容に変えた。稲毛海岸に日本初の民間飛行場を建設した元海軍技師の奈良原三次についての説明や、奈良原が製作した飛行機の歴史がパネルなどで展示されている</p>
<p>鴨川シーワールド [千葉県鴨川市] 2014.04・2015.03</p> <p>2014年4月、エコ・アクアローム内に「生物多様性コーナー」をオープン。千葉県に生息する希少生物、「ミヤコトナゴ」(「シャブゴンゴロウモドキ」)、「ニホンイシガメ」の展示とその保全活動について紹介。2015年3月、ロッカーワールド地階ポーターヘッドベンチャーに海鳥エトピリカの展示施設「ピリカの森」がオープン。「ピリカの森」の水槽では生息地である北海道の沿岸を再現。水槽内に森のように配置された昆布の中を、エトピリカが羽を広げて泳ぎ回る様子を観察できる</p>
<p>航空科学博物館 [千葉県芝山町] 2014.11・2015.02</p> <p>2014年11月、西棟1階に、ジャンボ機 (ボーイング747型機) の主要断面の展示を設置。2015年2月、東棟1階の「DC8シミュレーター」をリニューアル。航空機の搭乗疑似体験装置「DC8シミュレーター」を11年ぶりに刷新。操縦席や客席からの映像をハイビジョンで撮り直し、新たに静岡空港と福島空港へのフライトをコースに取り入れた「東京湾を巡る (東京周遊コース)」を加えた計3コースを用意。上昇、降下などに合わせて室内全体を揺らす装置のプログラムも一新した。操縦席や客席のモニターに映る正面映像に加え、客席両側の窓には実際に見える左右の風景を映し出し、客室乗務員やパイロット、管制官の声もイメージ再現して流している。機長、副機長と客席で14人が一度に搭乗することができる</p>
<p>千葉県立美術館 [千葉県千葉市] 2015.01</p> <p>耐震改修を行い、開館40周年を迎えた年度にリニューアルオープン。同館は耐震改修工事のため、2013年1月から休館していた。外観や内装は以前の姿を保ちつつも、耐震化のため屋根の材質を軽量化したほか、館内の照明をLEDに改修した。空調設備の補修、床材・壁面のリニューアルなども行い、開館以来初の大規模改修を実施。屋根に使われていた宮城県石巻市の雄勝石は、各展示室のプレートとして転用された</p>
<p>千葉市科学館 [千葉県千葉市] 2014.10</p> <p>プラネタリウムをリニューアル。開館7年目を迎えた同館のプラネタリウムは、レンズを使って天井に星を映す光学式と、コンピュータの映像をプロジェクターで映すデジタル式を組み合わせた「ハイブリッドプラネタリウム」で、今回のリニューアルは故障がちなデジタルの部分を更新システムに更新した。新しい投影用コンピュータシステムは約138億光年の宇宙の姿を再現。色鮮やかで明るい映像を実現するため投影方法も変更。プロジェクター2台が同じ場所に映像を重ね合わせて投影する「デュアルプロジェクションシステム」を世界で3番目に導入した</p>
<p>足立区生物園 [東京都足立区] 2014.04</p> <p>2013年8月から施設改修工事を行い、リニューアルオープン。出会いの広場の「大水槽」を約1,000匹の金魚が泳ぎ回る「金魚の大水槽」に改修。荒川河川敷で見られる生きものを1部屋に集めた「あだちの生きもの観察室」を新たに設置した。ゲージの内装を生きもの習性などに合わせて一新。より近くで見られるように配置した。改修工事に伴って、ミュージアムショップの内装もリニューアル。それまでは壁一面に家がデザインされていたため、商品の陳列スペースが限られていたが、家のデザインを撤去して壁紙を全て白に塗り替え、シンプルな棚を設置することで、壁全体を商品の陳列や紹介に使えるようになった</p>
<p>石田波郷記念館 [東京都江東区] 2014.10</p> <p>同館が入る交流施設「砂町文化センター」の改修工事に合わせてリニューアルを実施。4部構成の展示で「昭和の俳聖」の功績を分かりやすく紹介。波郷の写真や写集、ステッキやメガホンなどを愛用品の展示に加え、読売新聞江東版の人気企画だった「写真後時記」をテーマとするコーナーなど、展示の充実を図った</p>
<p>科学技術館 [東京都千代田区] 2014.07</p> <p>2階に新たな展示室「ものづくりの部屋」をオープン。「ものづくり」の注目すべき技術を紹介し、「ものづくり」のすばらしい体験を提供。近年発達が著しいものづくりのデジタル技術として、3Dプリンタを紹介。ワークショップコーナーでは、レーザー加工機を使って、オリジナルの定義を作ることができる</p>
<p>榎尾俊雄発明記念館 [東京都世田谷区] 2014.06</p> <p>新たな展示室として「時の部屋」と「音の部屋」を開設。「時の部屋」では、世界初のオートカレンダー機能内蔵の時計「カシトロン」や事務用情報処理装置「アドパス」を展示。「音の部屋」では、さまざまな楽器の音色で演奏できる電子キーボード「カシトロン201」やデジタルギター、電子管楽器などを展示</p>

<p>がすてなーに ガスの科学館 [東京都江東区] 2014.04</p> <p>2階展示室を全面改装。2014年3月に閉館した東京ガスの「環境エネルギー館」(横浜市) で行っていた地球環境問題についての展示の一部を移管・統合する形で改装を行った。エネルギーと地球環境問題との関わりを体験型展示物を通して紹介。時間帯によるエネルギーの効率的な組み合わせを体験したり、エコドライブ体験や家庭内のエネルギーの無駄遣い探し、地球にやさしい食材や商品の選び方を考えるコーナーなどを整備した</p>
<p>葛飾区郷土と天文の博物館 [東京都葛飾区] 2014.04</p> <p>老朽化に伴う改装を終えてリニューアルオープン。開館から20年以上が経過し、設備が老朽化したため改修工事を実施。LED照明にするなど、照明・空調・給排水設備などを改修。郷土展示室「かつしかのくらし」の一部も刷新。動画や写真を使って、農村から都市へと発展した葛飾の景観や土地利用の移り変わり、産業などを紹介。戦前に葛飾を興った水害の映像や戦時中の学童疎開の体験を語る映像を流し、かつて区内の工場で作られたセルロイド製の人形なども展示した。葛飾の土地の成り立ちを説明した地図システムには、現在の区の地図に明治時代の地形図や、昭和時代の空中写真を組み込み、来館者は画面にタッチすれば、自分の住む地域の変遷が分かる</p>
<p>旧白洲邸 武相荘 [東京都町田市] 2014.06・2015.01</p> <p>2014年6月、南西入口に新駐車場 (16台収容可能) を整備。駐車場から武相荘に向かう散策路とウッドデッキも整備した。2015年1月、以前は「お茶処」と「第一ギャラリー」として使用していた部分を本格的なレストラン (Restaurant & Cafe 武相荘) に改装してオープン。メニューは洋食が中心で、白州次郎・正子夫妻の食卓を再現した食事も提供する。「第二ギャラリー」は「BAR & gallery PLAY FAST」として新たにオープンした</p>
<p>江東区深川江戸資料館 [東京都江東区] 2014.07</p> <p>1階入口ホールに「横綱大鵬顕彰コーナー」を開設。大鵬の化粧まわしや太刀、優勝賜杯のレプリカ、手形・サイン、写真、盤などのゆかりの品々を展示し、写真パネルで横綱大鵬の足跡を紹介。大鵬は江東区初の名誉区民</p>
<p>佐藤美術館 [東京都新宿区] 2014.11</p> <p>5階休憩室を展示室及び多目的スペースにリニューアル。看板、サインなどのリニューアルや、展示室壁面のレイアウト変更、クロスの張り替え、防犯設備の新規導入 (新規監視カメラ、センサー等) などを行った</p>
<p>昭和館 [東京都千代田区] 2015.01</p> <p>戦後70年に合わせて常設展示室をリニューアル。常設展示室がある7階エレベーターホールに、戦後の焼け野原の状態を表現したトリックアートを設置。全国空襲被害状況について、都道府県ごとに死者数や戦災概況図、写真などの関連情報をつづのモニターで閲覧できる大型タッチパネルモニターを新たに設けた (7階「空襲への備え」)。モニターから米つきに関する解説なども流れ、学びながら米つきを体験することができるコーナーの設置 (6階「体験ひらば」) や、約600点の展示資料のうち半数を入れ替えた。各展示コーナーに設置されるモニターでは、展示資料やニュース映画、用語解説といった多様なコンテンツで総合的な「展示コーナー解説」ができるように整備した</p>
<p>昭和幻燈館 [東京都青梅市] 2015.02</p> <p>それまで館内では鉄道コレクションを展示していたが、展示内容を全面更新。「昭和幻燈館 有田ひろみ2人ほの青梅町商店街」として、墨絵作家の有田ひろみ氏とぬいぐるみ作家の有田ちよ子氏の2人のユニット「Q工房」の作品を常設展示</p>
<p>杉並区立郷土博物館 [東京都杉並区] 2015.03</p> <p>常設展示室をリニューアル。それまでの研究成果を反映して、常設展示室の全てのパネルを刷新。展示資料や写真、図表を増やし、展示の充実化を図った。収蔵資料を随時紹介する「すきなみコレクション」コーナーを新設。住宅都市すきなみをキーワードに近現代展示を大幅に拡充。展示替えが容易にできるような常設展示に改裝した</p>
<p>すみだ水族館 [東京都墨田区] 2015.01</p> <p>2014年11月にイベントの一環で設けられた「クラゲ万華鏡トンネル」が常設展示として新たにオープン。鏡の面積を約40%拡大して、より幻想的な空間を演出。異空間を演出するためにアモも導入した。全長50mのスロープに鮮やかな照明に照らされた8つのクラゲ水槽を設けた。壁と天井の3面に約5,000枚の四角形や三角形の鏡を敷き詰めることで、万華鏡と合わせ鏡の中を歩いているような体験ができる展示となっている</p>
<p>東京おまちゃ美術館 [東京都新宿区] 2014.09</p> <p>3階の「おもちゃのまち きいろ」にごっこファームを新設。ごっこファームは、素材の木そのものの色合いを活かしたさまざまな野菜の収穫体験をすることができるコーナー。大根・たけのこ・きのこなどを、たたく・ひねる・集める・植える・比べる・もぐなどして、野菜を収穫する際の手や指の動き、手応えを楽しむことができる</p>
<p>東京国立博物館 [東京都台東区] 2014.04・2015.01</p> <p>2014年4月、正門の外側に「正門プラザ」をオープン。チケット売場、インフォメーション、ミュージアムショップ、休憩スペース、託児室、授乳室などを整備。それまでミュージアムショップは館内にあり、入館料が必要だったが、「正門プラザ」の店舗は入館料なしで利用できる。本館では、1階15～19室を改装。LED照明と高透過・低反射のガラスを使った展示ケースが導入され、資料が格段に見やすくなった。展示ケース内は高い気密性能をもち温湿度の変化が少ない、安定した空気環境を確保している。展示ケース以外に、解説、グラフィック、照明、17室 (保存と修理) に19室のライオン体験コーナーも新しくなった。2015年1月、黒田記念館がリニューアルオープン。耐震工事と展示室の整備を実施。新設した黒田清輝の代表作4点 (「湖畔」読書「舞妓」智・感・情) を展示する特別室を設置。所蔵の油彩画約130点、デッサン約170点、写生帖などを展示する黒田記念室も温湿度などの環境が調えられた</p>
<p>東京消防庁消防防災資料センター 消防博物館 [東京都新宿区] 2015.03</p> <p>1階部分を全面リニューアル。開放的なおもてなし空間とデジタルサイネージを活用した情報発信機能を整備した。新たに設けた大型モニター (防災ミニアター) では、2014年9月に噴火した御嶽山での救助の様子などを紹介</p>
<p>東京都江戸東京博物館 [東京都墨田区] 2015.03</p> <p>開館以来初の常設展示室のリニューアルを実施。「江戸城と町割り」コーナーには「幕末の江戸城一本丸・二丸御殿」模型を設置。直径約6mの円形の中に、200分の1の大きさで幕末の江戸城の本丸御殿と二丸御殿を復元した。ほかにも「江戸と結ぶ村」と「島」コーナーの「玉川上流流域」模型など、新たな模型を配置した。今回のリニューアルでは、体感できる模型に新たに増設し、体験学習のためのスペース「ミュージアム・ラボ」も新設した。江戸ゾーンと東京ゾーンの2つをつなぐ「江戸から東京へ」コーナーを新たに開設。勝舟舟の視点で、江戸から東京への移り変わりを紹介している。「高度経済成長期の東京」コーナーも充実させた。「ひばりが丘団地」の一室を実物大で復元し、ダイニングを中心に1962年頃の暮らしを再現。また、「現代の東京」コーナーも新設。展示の対象をそれまでの1960年代から2000年代までを広げ、ファッションや学校給食などを10年ごとに比較し、暮らしの変化を体感できるようにした。常設展示室内の展示解説にタブレット端末を導入し、日本語・英語以外に、中国語や韓国語、フランス語、スペイン語による解説も実現した</p>
<p>東京都多摩動物公園 [東京都日野市] 2014.05</p> <p>旧オオカミ舎の改修工事を行い、アムールトラ舎としてオープン。新しいアムールトラ舎は、一部がガラスに環境について、間近でトラを見ることができる</p>
<p>東京都庭園美術館 [東京都港区] 2014.11</p> <p>約3年にわたる大規模改修を経てリニューアルオープン。本館の改修と新館の建て替えを実施。旧南香宮邸の本館では、壁紙やカーテン、調度品など細部にわたって1933年の建設当時の姿に近づけた。創建時の資料を基に、外壁をアイボリーに塗り直したり、壁紙やカーテンを復元した。1階ではアンリ・ラポルがデザインしたセーブル製内噴水塔も修復した。本館に隣接する新館にはホワイト・キューブの展示室を新設し、ミュージアムショップやカフェも整備した。従来の正門横のショップもリニューアルオープン</p>

東京都復興記念館 [東京都墨田区] 2015.03
東京大空襲から70年を迎え、2階の戦災展示コーナーをリニューアル。写真や図版のパネルを新調し、日米開戦から東京大空襲・終戦、そして戦後復興までを時系列に沿ってわかりやすく説明した。警視庁の石川光陽カメラマンが撮影した空襲被害写真も展示
日本科学未来館 [東京都江東区] 2014.06・2015.03
2014年6月、3階に親子向けの新コーナー「おや?っこひろば」をオープン。3歳以上の子どもとその保護者を対象に、ワークショップや体験型の展示を楽しむながら、科学的なモノの見方を体験する無料のスペース(約600㎡)。4つのアクティビティエリア(ごろごろのしば、かきまきのへや、コロコロのかべ、ザンダーカンマー みんなのアイデア)と、保護者のためのスペース(おや?親サロン)で構成。「おや?親サロン」は、保護者が離れたところから子どもを見守るエリア。数ヶ所に設置されたカメラを遠隔操作することで、工作中に熱中する子どもの表情など、普段は見られない姿に触れることができる。2015年3月、5階常設展の生命エリアを全面リニューアルして、新展示「細胞たち研究開発中」(約110㎡)、実験教室「iPS細胞から考える再生医療」、来館者が意見を発信するコーナー「OPINION BANK (オピニオン・バンク)」(約210㎡)をオープン。「細胞たち研究開発中」には、iPS細胞をめぐる近未来のシミュレーションを体験できるシアターゾーンを設置。5つのコーナーでは、病気を怪我に直面する場面が描かれ、iPS細胞により選択肢と向き合い、体や生命をコントロールする可能性について考えることができる。「OPINION BANK」は、先端研究分野における社会的・倫理的課題や様々なリスクなど、絶えずテーマを変えながら問いを投げかけることができる設計となっている
府中市郷土の森博物館 [東京都府中市] 2014.10
2年に及ぶ常設展示室の改装が完了して、リニューアルオープン。既に「くらやみ祭」「こども歴史街道」体験ステーション」が一部先行する形でリニューアルしていたが、今回、新たに「ムラのはじまり」「古代国府の誕生」「国府から府へ中」宿場のにぎわい」「変わりゆく府中」「都市と緑」との6つの展示コーナーがオープン。「ユニバーサルデザインを採り入れた、利用者にやさしい展示空間の構築」「府中ならはの展示コーナー」の構築と、蓄積された調査・研究成果の提供(基本方針)と参加型体験型展示を融合し、体感的に楽しみ、学ぶ展示空間の創出」を基本方針に、開館以来初の常設展示室の全面リニューアルを行った
平和祈念展示資料館 [東京都新宿区] 2015.02
常設展示室をリニューアル。パネルや資料を増やし、来館者が見やすくなる配置にして、当時の体験者の思いをより深く感じてもらうことのできる構成にした。当時の写真と体験者の証言などで作り上げたイメージ空間「プロローグ」を新設。兵士コーナーと戦後強制抑留コーナーを大幅にリニューアルした。兵士コーナーでは、戦争が始まった頃と終わりの頃とで、軍服の素材などが粗悪になっていく様子やわかる展示などを新たに配置。戦後強制抑留コーナーは拡大され、抑留体験者の証言として出てくるもの多、抑留中に作った「スプーン」30本や体験者が描いた絵画などが新たに展示された
本所都民防災教育センター(本所防災館) [東京都墨田区] 2015.03
3階の「川の手地域コーナー」を、より体験を重視したコーナーにリニューアル。最先端のデジタル技術を駆使した映像装置により災害を体験できる「異常気象エリア」、地形図などを用いた展示により災害を学ぶことができる「川の防災エリア」、書籍やインターネットにより災害に関する情報を知ることができる「ライブラリーエリア」の3つのエリアによって、異常気象と川の手地域について新しい体験と学習ができるようになった
神奈川県立21世紀の森 [神奈川県南足柄市] 2015.03
森林館の展示室をリニューアル。「観る、触れる、学ぶ、遊ぶ」をキーワードに、仕切りを取り払って明るく開放的な空間に一新した。展示では、中央に高さ約8m、直径42cmの模擬樹木2本を建て、樹身大の人形で木に登っての枝打ちや、下草刈りの作業を再現した。来館者が作業服を着て、樹木の幹にチェーンソーを当てる作業を体験できるコーナーも設けた
京急油壺マリナーク [神奈川県三浦市] 2014.07
園内の「かわうその森」がリニューアルオープン。繁殖に成功したコツメカワウソ4頭の新たな施設2棟を増設。「かわうその遊び場」では、透明の水槽内を半回転して遊泳するなど、カワウソたちのエニョクな行動が観察できる。「かわうその教室」では、人工保育で育てた好奇心旺盛なカワウソが、おもちゃの楽器などを配置し教室に見学した施設内で活動する様子を観察できる
新江ノ島水族館 [神奈川県藤沢市] 2014.04
開館10周年を機に新施設「ウミガメの浜辺」をオープン。ウミガメプールがあった場所を拡大(約500㎡)、水温調整などができるプールや産卵用の砂浜を整備した。水温を常時25度前後に調節できる装置を備えたことで、ウミガメ類3種を越冬させるようになった。スロープ状の観察デッキも新設し、来館者が間近に観察できるよう工夫を施した。また、屋上(標高15m)には津波発生時に備えた「一時退避場所」を整備した
三菱みなとみらい技術館 [神奈川県横浜市] 2015.03
海洋ゾーンがリニューアルオープン。実物大の有人潜水調査船「しんかい6500」を部位で切り分けて内部の仕組みがわかるようにした「分解展示」(「しんかい6500」実物大分解展示)を中心に、次世代潜水調査船シミュレーター(「SUPER SHINKAI」に挑戦)など、深海の探査に挑むものづくり技術が体感できる展示で構成。「シメカニマルをつくる」では、タッチパネル操作で自分の好きなパーツや色を選び、「さかな型」や「くらげ型」のボディを持つ深海生物メカニマルをつくることことができる。完成後は、壁から床まで広がるワイドスクリーンに自分が作ったシメカニマルが登場する(最大20匹の同時遊泳が可能)。このスクリーンでは「しんかい6500」も上映する。タッチパネル操作による「しんかい6500」のチャレンジ学習コーナー「しんかい6500」メカニックベース」も設置
山口蓬春記念館 [神奈川県山町] 2014.08
1991年に開館以来初となる大規模改修工事を実施。2013年が蓬春生誕120周年にあたることから記念事業として推進した。本館では、展示室1室から3室に拡張(2013年10月完了)。別館を建て替えて、1階には絵画教室の会場兼団体客用休憩スペースを設け、2階には喫茶スペースを整備した
横浜子ども科学館「はまぎん 子ども宇宙科学館」 [神奈川県横浜市] 2014.04・2015.03
2014年4月、1Fラウンジをリニューアルして、新たにカフェをオープン(「コスモカフェ」)。2015年3月、宇宙劇場(プラネタリウム)が約2か月間の改修工事を終えて、リニューアルオープン。300席だった座席数を263席に減らし、一席あたりの座席幅を広げた。中段から最前列までの座席には5度から35度までのリクライニングシートを導入し、どの席からでもスクリーンを一望できるようにになった。また、車椅子席の場所は下段から上段の投影の見やすい位置に移動し、階段昇降車を導入した
横浜市立野毛山動物園 [神奈川県横浜市] 2014.08
爬虫類館がリニューアルオープン。耐震補強工事に合わせて、天窓を従来の3倍の大きさに拡張し、採光を増やしたほか、ワニの展示場を来館者の目線近くまで底上げて見やすくなるように工夫した。展示場の背景には亜熱帯の川やパンナナなど、それぞれの種の生息地の風景写真を設置。また、種ごとに飼育環境を変えられるように、ミストシャワーや温水式のヒーターなども整備した。従来の2倍の大きさの水槽ではバタグールガメが泳ぐ様子を観察することができる
新潟市新津鉄道資料館 [新潟県新潟市] 2014.07
2013年の開館30周年を機に改修工事を実施。2014年4月に、新津地域の鉄道の歴史などを紹介する1階常設展示室と屋外部分が開館(プレオープン)。常設展示室では、同館が旧国鉄時代を中心に収集してきた保線車両など多くの鉄道資料を収蔵展示形式で紹介。屋外には、200系新幹線の先頭車両とC57形式蒸気機関車の19号機などを展示。2014年7月、2階の改修工事を終えて全面開館。2階には、パノラマ展示室と企画展示室、多目的スペースを新たに整備した。パノラマ展示室には、鉄道模型を走らせるジオラマを設置し、取り囲むようにカウンター席を設けた。パノラマ展示室の一角に子ども向けのスペース(キッズコーナー)を設けて、鉄道のおもちゃや絵本を描いている

フォッサマグナミュージアム [新潟県糸魚川市] 2015.03
北陸新幹線開業に合わせて、1994年の開館以来初となる全面改装を行い、リニューアルオープン。糸魚川を代表するヒスイやフォッサマグナについてより分かりやすい展示、解説内容に刷新した。6つの展示室があり、地元産のヒスイを約400点、国内外の化石、鉱物も展示し、石の展示数は倍以上の約2,000点に増加。200インチの壁・床一体型の大規模スクリーンでフォッサマグナについて解説する「フォッサマグナシアター」も設置した。また、市が誘致を進める教育旅行に対応するための、新たに広さ約150㎡、80人収容の研修室兼企画展示室を増築した。さらに、糸魚川ジオパークの基幹施設として市内24カ所の見学スポットを紹介する情報コーナーを新設。閉館した旧青海自然史博物館の資料なども展示する
射水市竹内源造記念館 [富山県射水市] 2014.04
2012年から、建築当初の姿に復元する改修工事を推進(2014年3月18日登録有形文化財に答申)。砺波市内の旧家土蔵壁面から日本最大級の鏝絵である「双龍」を移設、修復し、リニューアルオープン。竹内源造の鏝絵作品を展示する観光交流施設であり、鏝絵を活かしたまちづくりの拠点として鏝絵文化の情報発信と伝承を図る。鏝絵体験棟では、小学生から大人までが楽しめる鏝絵制作体験を実施
特別天然記念物 魚津埋没林博物館 [富山県魚津市] 2015.03
1992年の改装以来、23年ぶりとなるリニューアルを実施。埋没林と蟹気楼をテーマに特化し、北陸新幹線開業に合わせて首都圏などからの観光客にわかりやすい展示に変更した。埋没林を発見当時のまま保存展示している水中展示館は、照明を一新。水中の樹根がより立体的に見えるように水中LEDライトを配置した。センサーで見学者を感知して点灯する。乾燥展示館は、スロープを整備し、巨大樹根に子どもたちが触れやすくなった。テーマ館では、埋没林と蟹気楼を体験しながら学ぶように工夫。埋没林の木の本根に触れたり、木の重さやにおい、たいいた音などを体験できるコーナー、疑似的に蟹気楼を発生させる装置や光の屈折を観察できる装置を新設した
富山県立山博物館 [富山県立山町] 2015.03
2階の「第2展示室-立山信仰の世界-」の一部の展示をリニューアル。入口部の空間演出の変更と、布橋灌頂会の映像演出を実施。入口部では、立山信仰の世界を象徴する立山頂上社殿(模型)の背景として、ハイビジョンで新たに撮影した雄山山頂付近からの実写映像を大画面で上映。模型の周りに常願寺川水系の安山岩製の造形物を配置し、雲海に浮かぶ頂上社殿を表現した。また、布橋灌頂会をより理解しやすくなるため、既設のジオラマ模型に加えて、新たに50インチのモニターを設置し、現代に復元された布橋灌頂会の模様を見れるようにした
富山市ファミリーパーク [富山県富山市] 2015.03
新たにライオン舎がオープン。3つの展示室が設けられ、ノルウェー原産のスーパーバルライオンの冬と夏両方の姿を紹介する。本日調の餌を食う様子や、鉄筋コンクリート平屋建137㎡、展示室は各10㎡。外気の影響を受けない空調設備を備え、マイクを通して鳴き声が聞こえる。生態を紹介するパネルも展示
ますのすミュージアム [富山県富山市] 2014.07
北陸新幹線の開業に向けて内装を一新。まず、まず製造の株式会社源やまずの歴史などを紹介したモニター映像では、外国人観光客に対応するため、英語や中国語、韓国語を表示した。体験コーナーも充実させて、ササを容器に詰める作業や同社のゆるキャラ「ますまる」の顔になる手巻きずし作りを楽しむことができる。土産品などを集めたショップは城下町のイメージに一新し、商品の種類を3倍に拡充
石川県西田幾多郎記念哲学館 [石川県かほく市] 2015.03
北陸新幹線開業に時期を合わせ、2002年の開館以来初めて展示室の全面改装を実施。1階は東洋、西洋の哲学や思想に触れるコーナーを整備。幾多郎の格言を記した大型タペストリーを壁に掛け、2階は幾多郎の生涯を8テーマに分けて紹介。幾多郎が音楽を書き残した日記帳や、鈴木大拙など旧友との開談を録音したレコードなどが新たに加わった
石川県立航空プラザ [石川県小松市] 2015.03
1階実機展示とプレエリア(子供広場)をリニューアル。天井工事に併せて、展示場のリニューアル工事及びプレエリア(子供広場)の一部改修工事を実施。YS-11Aシミュレーターとエアラインコーナーをリニューアル。シミュレーターは、それまで設置されていた全日本空輸株式会社で使用されていたものを改修し、小松市や周辺地域上からの飛行が体験できるようにした。エアラインコーナーでは、AR技術を使った小松空港のジオラマを整備。ジオラマにタブレット端末を向けると、映像や情報が読み取れるようにした。その他、記念撮影コーナーや航空管制シミュレーターもリニューアル
いしかわ動物園 [石川県能美市] 2015.03
特別天然記念物のタンチョウとマナヅル、コウノトリの3種の混合展示スペース「ツルたちの水辺」が新たにオープン。新展示場は、同園の中心に位置する調整池近くに整備。タンチョウは「千葉市動物公園」、コウノトリは「よこはま動物園」から譲り受けた。逃げ出さないように障害物を配置したほか、タスキなどの外敵から守るために電気柵を設置した
泉鏡花記念館 [石川県金沢市] 2015.03
常設展示室の内装などを一新してリニューアルオープン。常設展示室には、引き出し式の展示ケースを新設するとともに、展示パネルのデザインも一新した。大型スクリーンを備えたミニシアターを新設し、鏡花原作の「絵本 化鳥」のアニメーションなどを常時上映する。展示室の壁面ケースやミュージアムショップの内装も一新し、美麗な「鏡花本」を鑑賞できる展示ケースも設置した
金沢菓子木型美術館 [石川県金沢市] 2015.03
新たな展示コーナー「菓葉を彩る器たち」を設置。同コーナーでは、江戸時代や明治、大正、昭和初期に作られた九谷焼などの菓子器百点余りを展示
徳田秋聲記念館 [石川県金沢市] 2015.03
開館10周年を迎えリニューアルオープン。2階常設展示室に大規模ガラスケースを新設し、金沢を舞台にした作品「故郷」の原稿など、秋聲と金沢とのつながりを紹介する資料を展示。秋聲の生涯を紹介するパネルやキャプションも一新した。1階では展示スペースを分けていた壁をなくし、読書コーナーを新設。秋聲とゆかりの作家の著作約180冊を収めた書棚を設置したほか、短編小説の朗読を聞くことができるタブレット端末を設置した
鯖江市西山動物園 [福井県鯖江市] 2015.03
ポリビニルサルセルの改修を実施。新舎は通路側に拡張するとともに、金網をガラス張りに変更したため、リスザルの生体行動をより間近に観察することができる。通路の反対側に設置したエサ場と、高さ約3mの空中回廊「リスザルさんのさんばみち」でつなぐことで、リスザルが自由に行き来する様子も見ることができ
福井県海浜自然センター [福井県若狭町] 2014.04
舞鶴若狭自動車道の新全線開通に向けてリニューアルを実施。生き物の展示を充実させるために施設を改修。十数個だった水槽を35個に増やし、大型水槽(幅4.5m、高さ2m、奥行1.5m)を設置。展示用の生き物も、40種類余り(150匹)から約100種類(1,500匹)に増やした。1階に設置した大型水槽には、若狭湾の味覚を代表する魚を展示。2階展示室の水槽では、三方五湖の魚を湖ごとに展示している。2階の床には若狭湾周辺の衛星写真、壁には若狭湾の鳥や畜鳥、三方五湖の写真を使った。若狭湾と三方五湖の四季の変化を空中撮影した3D映像「若狭の風を感じて」を新たに制作し、上映。若狭湾を眺望できる2階のベランダには足湯コーナーなどを整備
福井県立恐竜博物館 [福井県勝山市] 2014.04・2014.07
2014年4月、開館後初めてミュージアムショップを大規模改装した「DINO STORE」(ディノストア)がオープン。リニューアル後は、グッズのアイテム数を約700点から1,050点に増やした。また、レジの数も2台から4台に増倍増設、自動釣り銭機の導入や電子マネー対応も行った。店内では、陳列棚などに恐竜をかたどったデザインを採用。照明や商品陳列を工夫することで店内全体を見通しやすくなった。2014年7月、化石の発掘作業を体験できる新施設「野外恐竜博物館」がオープン。舞鶴若狭自動車道の新全線開通と北陸新幹線金沢開業に向けて、誘客の目玉の一つとして整備した。発掘現場を恒常的に一般公開する取り組みは国内初。「展示場」化石発掘体験「ジオラマ」から入り、展示場は1階部分の約150㎡が展示スペースで、谷谷で発掘された恐竜の化石や発掘現場のジオラマなどを見学している。屋外の化石発掘体験広場では、発掘現場で採取した岩石を、研究員のアドバイスを受けながらハンマーで割り、化石を探す体験ができる。観察広場では、実際の発掘現場を間近に一望することができる

<p>福井県立歴史博物館 [福井県福井市] 2014.04</p> <p>ミュージアムカフェ「歴博茶房」ときめぐる、カフェ。」がオープン。席数は、テーブル24席、カウンター12席の計36席。店内は茶系インテリアでまとめている。入口脇の書棚には小説や事典などの歴史関連書を並べている</p>
<p>福井県立若狭歴史博物館 (旧：福井県立若狭歴史民俗資料館) [福井県小浜市] 2014.07</p> <p>旧福井県立若狭歴史民俗資料館の展示内容を刷新し、館の名称も変更してリニューアルオープン。1994年以來、20年ぶり2回目となる大規模な常設展示の更新を図り、舞鶴若狭自動車道の新開通に合わせて開館した。常設展示は、「若狭のみとけ」「若狭の祭り」と芸能「若狭のなりたち」「若狭から都への道」「若狭への海の道」の5つのゾーンに分かれる。若狭のみとけゾーンでは、重要文化財2体を含む計15体を展示。うち9体は実物で、小浜市黒駒区・大日堂の大名如來坐像や蓮華寺で秘仏として保管されてきた阿彌陀如來三尊像など貴重な仏像を展示している。ほかのゾーンでは、鳥浜貝塚の出土品や平城京跡から出土した木簡の複製、小浜藩医だった杉田玄白などの「解体新書」の原書などの展示や、「サバ街道」で有名な都と若狭をつなぐ道をプロジェクションマッピングでダイナミックに体験することができる展示を展開。1階エントランスには、小浜市で行われる若狭地方最大の秋祭り「放生祭」(県指定無形民俗文化財)で使用されていた神楽舞台を展示</p>
<p>御食国若狭おぼま食文化館 [福井県小浜市] 2015.03</p> <p>開館以來10年以上が経過したことやユネスコの無形文化遺産に「和食」が登録されたことから、リニューアルを実施。来館者の多い家族連れを対象に、1階のインフォメーションとミュージアムを改修し、展示内容を一新した。地元の食の情報と、和食をテーマにした展示を充実。食の情報は、地産地消を進める飲食店をテレビモニターで紹介。春を告げるイササ漁など、小浜の旬の食材も特大的なマップに掲載した。常設展示として、日本のすしや雑煮、小浜市の四季の食、伝統行事に用いた食をレプリカを並べて解説。従来の25倍に当たる約250点のレプリカを準備した。床面を出した若狭から京都の「鯖街道すごろく」や、若狭おぼま魚図鑑」と題したパネルも設けて、子どもたちが楽しく学べる展示構成にした。自分で目的地をカスタマイズしてその場で散策マップを作ることができる専用装置「My Obama Promenade」なども設置</p>
<p>中村キース・ヘリング美術館 [山梨県北杜市] 2015.03</p> <p>約1年間の増築工事を終えて、リニューアルオープン。増築部分は1階建てで、中庭があった場所に建設。延床面積は約405㎡、既存建物と合わせた広さは約1250㎡となった。展示室2室を新たに整備して計5室に拡充したほか、カフェも新設。展示スペースを兼ねた通路で既存建物と連結している。このリニューアルでは、「生命の荒らしさ」をキーワードにした斬新な設計を行っている。外壁には波動をデザインし、中庭には稲妻形の壁が出現している</p>
<p>山梨県立リニア見学センター [山梨県都留市] 2014.04</p> <p>リニアの普及啓蒙や観光振興を目的とした3階建ての新館「ときどきリニア館」がオープン。1階は「学ばず」、2階は「体験する」、3階は「見る」がテーマ。1階は、2003年に世界最速の時速581kmを記録した全長30mの試験車両「MLX01-2」を展示。車内の見学もでき、車両脇には50年に渡るリニア開発の歴史を説明するコーナーも設置。2階は、実験と装置で超電導リニアの仕組みを学ぶコーナーを設置し、磁気浮上走行が体感できる2人乗り「ミニリニア」も整備。屋外テラスでは、山梨リニア実験線の時速約500kmで走行するリニア車両を間近で見学できる。3階は、時速500kmを疑似体験できる「リニアシミュレーター」とJR東海が2027年を目指すリニア開発後の展望した立体模型「リニアジオラマ」を整備。既存施設は「わくわくやまなし館」としてリニューアル(展覧室3階)、観光情報コーナー(2階)、SHOP(2階)で構成</p>
<p>有島生馬記念館 [長野県長野市] 2015.01</p> <p>1982年の開館以來初となるリニューアルを実施。前館長の山口明氏が改めて調査を進め、洋画の展示数を増やしたり解説パネル68枚を新たに追加するなど内容を拡充した。内容に添って展示空間の見直しを行った。島崎藤村など文人・画人との交流を新たにパネルで解説したり、小説家の弟・里見淳や、有島武郎などを写真や書籍で紹介するなど、生馬の家族に焦点を当てた部屋も新しく設けた</p>
<p>飯田市立動物園 [長野県飯田市] 2014.04</p> <p>2011年から進めている整備事業の一環。小獣舎の改築を実施し、新しいイノシシ・タヌキ舎が完成。動物が暮らす野生の環境を再現する「生息環境展示」を導入。イノシシやタヌキがすむ里山の環境をイメージした。動き回る動物たちが観察しやすいようにアクリル板を設置し、岩や低木なども設置した</p>
<p>岐阜市長良川鶴飼伝承館 (長良川うかいミュージアム) [岐阜県岐阜市] 2014.07</p> <p>館内に、カフェ「クロバーコーヒー長良店」がオープン。親子連れが来店しやすいように子どもが遊べるキッズスペースを設置。店内には授乳室を設け、保育士資格を持つスタッフも配置。離乳食やアレルギーに配慮したメニューも用意している</p>
<p>杉原千畝記念館 [岐阜県八百津町] 2015.03</p> <p>展示内容を一新してリニューアルオープン。1階の常設展示を全面改修した。ナチスによるユダヤ人迫害の歴史や千畝の経歴、救われた人々が寄せた感謝のメッセージなどをまとめたパネル展示のほか、虐殺の実態を伝える写真も展示。館内5カ所に設置されたモニターやタブレット端末によって、映像を通じて理解できるようにしている。「命のビザ」の実物も展示した</p>
<p>中津川市子ども科学館 [岐阜県中津川市] 2014.07</p> <p>半導体レーザーの研究で日本国際賞を受賞した東京工業大学栄誉教授の末松安晴博士の功績をたたえる「末松安晴博士顕彰室」が開設。光ファイバー通信の実験装置のレプリカをはじめ、光を曲げて伝送する簡易光通信実験装置などを展示し、子どもたちが自由に触れて体験することができる。各種通信機器の紹介や、博士の経歴、受賞したメダルのレプリカ、肖像画なども並ぶ</p>
<p>瑞浪市化石博物館 [岐阜県瑞浪市] 2014.04</p> <p>老朽化に伴い、施設の改修工事を実施。開館以來、2回、小規模な改修は行っていたが、大きな改修は今回が初めて。常設展示室は「分かりやすさ」を意識し、解説パネル50枚を更新した。児童生徒に分かりやすいように、教科書を意識した展示に改装。新たに生物の復元画や発掘作業の写真を加えた。展示室の天井の一部などを補修し、照明の一部をLED(発光ダイオード)に換えた</p>
<p>伊豆シャボテン動物公園 [静岡県伊東市] 2014.07</p> <p>新施設「カピバラ虹の広場」(約1,000㎡)がオープン。広場内では、エサやり体験ができるカピバラファミリーの他、七面鳥、ビグマゴート、アルパカ、テンチラなどが放牧されている。カピバラをモチーフにした石像の口や鼻からミストシャワーが噴射するオリジナルの噴水(カピバラミストシャワー)や工房(カピバラ工房)を設置。夏には子どもたちが噴水の周りでカピバラと一緒に水遊びができる。工房には素焼きのカピバラ人形を用意。有料でペイント体験を楽しむことができる</p>
<p>静岡県地震防災センター [静岡県静岡市] 2014.04</p> <p>2013年6月に県が発表した第4次地震被害想定の内容を分かりやすく伝えるため、「東海地震コーナー」を一新。南海トラフ巨大地震などを意識した展示内容で、分かりやすさを重視して映像や実験装置(振動、津波、液状化現象の実験装置)を多用した。対策を伝える「防災・減災ウォール」は、山間部、都市部、海岸部の3通りに分け、特徴的な被害や取り組みを映像で紹介。「自助・共助減災ウォール」はパネルなどで備え方を説明</p>
<p>静岡市立日本動物園 [静岡県静岡市] 2015.03</p> <p>新ホッキョクグマ舎と新アメリカバイソン舎が完成。新ホッキョクグマ舎は猛獣館の横に増築。寝室、飼料場とともに、広いプールを備え、2つの大きなガラス窓からホッキョクグマが泳ぐ姿を間近で観察することができる。同舎には人口造雪機も設置。なお、新舎に入居する雄のロシアウシ鹿は、完成時は繁殖期であったため、2015年6月に引越した。旧バイソン舎は1969年の開園に合わせて建てられていたが、新ホッキョクグマ舎を建設するため、建て直すことになった。新アメリカバイソン舎は、旧バイソン舎より規模が小さくなったが、真上からバイソンを見下ろせるスポットや、エサやりイベントができるスポットを併設している</p>

<p>静岡理科大学 静岡航空資料館 [静岡県牧之原市] 2014.11</p> <p>静岡の模型産業コーナーとして「タミヤ航空機模型展示室」(約70㎡)を開設。静岡県の模型メーカーの株式会社タミヤから同社製プラモデルの寄贈を受け、静岡の模型産業コーナーを充実させた。航空機模型94機やボックスアート(箱絵)約20点などを展示</p>
<p>城ヶ崎文化資料館 (伊豆高原おもしろ博物館) [静岡県伊東市] 2014.06</p> <p>2014年9月から休館して進んでいた改修工事を終えてリニューアルオープン。無料スペースのカフェ、ギャラリー、ライブラリーを新設し、展示室(有料)の展示内容を一新した。甘味カフェ「アジサイ舎」は、大きな窓から光が差し込むように整備。ギャラリー「アジサイ舎」は、地域の人たちの手芸や写真、絵画、陶芸などの作品発表の場として提供している。「伊豆高原ライブラリー」では、郷土の歴史を伝えるさまざまな資料を見ることができ、「おもしろ博物館」と名付けられた展示室では、昭和の茶の間を再現したほか、貸し本漫画、懐かしいおもちゃ、めんこ、映画のポスターなど、昭和を中心とした展示に模様替えした。漁具や農具、ランプなどの古い民具も展示している</p>
<p>スズキ歴史館 [静岡県浜松市] 2015.03</p> <p>2階に新コーナー「ワールドアドベンチャー」をオープン。海外で行われているスズキ株式会社のものづくりの紹介とともに、それぞれの国の文化なども紹介。一定の時間で自動上映されるオープンシアターとして設置</p>
<p>東海大学自然史博物館 [静岡県静岡市] 2015.01</p> <p>展示改装工事を終えてリニューアルオープン。富士山の自然を解説する立体ジオラマなどの新しい展示が完成した。立体ジオラマは3万㎡の縮尺で、富士山と県東部や山梨県など周辺の地形を、縦15m、横18mの模型に表現した。地面の起伏に合わせてスチロールを削りフラットに平坦にした。プロジェクションマッピングの技術で衛星写真などを投影する。富士山の成り立ちを示す地質の特徴や四季の風景などを解説した14パターンの映像を上映する。そのほか富士山で採集したチョウの標本や、水に恵まれた静岡の川を上流、中流、下流ごとに再現するジオラマとそこにすむ生きものの生態を解説するコーナーなども設置</p>
<p>愛知県陶磁美術館 [愛知県瀬戸市] 2014.10</p> <p>本館2階(第3~6展示室)の常設展示を全面リニューアル。重要文化財3点を含む優品で構成した「名品コーナー」を新設し、さらに600点に及び日本をはじめ世界各地の陶磁器を通史的に紹介。ガラスへの鑑賞者の写りこみを軽減する「低反射シート」を全室(第3~6展示室)の壁面ケースに採用。防震装置組み込み展示台を整備するとともに、美術品などの展示用に照充された最新のLED照明で作品をより魅力的に演出</p>
<p>一宮市博物館 [愛知県一宮市] 2014.10</p> <p>2014年3月から休館して進んでいた改修工事が完了し、リニューアルオープン。常設展示室では市の考古・歴史資料を増やした。子どもが学習しやすいように写真や説明文を増やし、歴史を概観できる映像コーナーを設けた。1960年代に市内の繊維工場で使われていた国産の織機なども新たに設置。常設展示のリニューアルに伴い、市民が利用できるギャラリーを2階に新設(2015年4月1日から貸出を開始)。旧習習室は「たいけんの森」に改装。木のバズルと民俗資料のミニチュアなど、自分で学べるアイテムを用意。そのほかエレベーター棟の増築や喫茶コーナーも新設した</p>
<p>大府市歴史民俗資料館 [愛知県大府市] 2015.03</p> <p>改修工事が完了してリニューアルオープン。2014年3月に閉鎖した旧中央図書館部分を改修。1階に公文書保存庫と企画展示室、2階に多目的ホールと会議室を新設した。1階の常設展示室も内容を更新。公文書保存庫には歴史的価値がある30年以上前の文書約1,250冊を保存している</p>
<p>蒲郡市竹島水族館 [愛知県蒲郡市] 2015.03</p> <p>新水槽「三河湾大水槽」「カピバラ水槽」がオープン。三河湾大水槽は、来館者から要望が強かった三河湾の魚類を一室に集めて展示した。「ふれあい水槽」は、池を設けたカピバラ水槽を設置したほか、アシカショー関連施設では、スタンドレインステージを結ぶ導入路を設置し、スタンドの塗装工事を行った。さらにアシカなどの獣舎も改修した</p>
<p>豊川市老朽化ミュージアム [愛知県豊川市] 2015.01</p> <p>施設の老朽化に伴い、約1年間の増改築工事を実施してリニューアルオープン。延床面積は3,336㎡から4,046㎡に拡張された。1階南側の増築棟に市民ギャラリーを2室新設して、計6室に拡充した。北側の増築棟1階部分は収蔵庫となり、国宝級の資料も所蔵できるように整備した。1階西側の特別展示室も改装。そのほか、空調の高機能化、照明のLED化、トイレの改修、授乳室の新設など、利便性を考慮した改修も重点的に行った</p>
<p>トヨタ産業技術記念館 (旧：産業技術記念館(トヨタテクノミュージアム)) [愛知県名古屋市] 2015.03</p> <p>東工展(自動車館1階試作場の東側)に新展示「豊田喜一郎とは?」を整備。開館20周年記念特別展「喜一郎の夢」(2014年6/28~10/4開催)で紹介した内容の一部を常設化した。エピソードの森、喜一郎年譜、映像コーナーで構成</p>
<p>名古屋海洋博物館 [愛知県名古屋市] 2015.03</p> <p>開館30周年を機に、大規模改修を実施してリニューアルオープン。「日本一の国際貿易港・名古屋港」をテーマに改修し、従来の展示の情報提供を行うだけでなく、コンピュータ・グラフィックス(CG)を駆使した最新の展示手法の導入、利用者参加型の体験型展示など、親しみやすさやわかりやすさを整備した。新設された航海士の訓練用に使われている本格的な「親しシミュレータ」は、忠実に再現された名古屋港の風景を大型モニターで見ながらゴールを目指してかじを切り、雨の風景や夜景などにも切り替えることができ、港を周遊しているような体験ができる。名古屋港の飛鳥島頭に整備されている、日本初の日働化コンテナターミナルの大型電動クレーンを新設。船からコンテナの積み下ろしをするクレーンの運転を疑似体験できる「ガントリークレーンシミュレータ」も設置した</p>
<p>名古屋港水族館 [愛知県名古屋市] 2014.12</p> <p>南館「赤道の海」の改修工事が完了して、「サンゴ礁大水槽」と生きたサンゴを展示する「ライブコーラル(生体サンゴ水槽)」を公開。サンゴ礁大水槽は、南館1階から3階へ吹き抜け、水量600tの水槽に200種類、3,000点の熱帯魚を展示。水槽にはオーストラリア東岸のグレートバリアリーフを再現した模型を配置。1階には約14mのトンネル型水槽が整備され水槽の底面、2階からは側面、3階からは上面の3方向から水槽を眺めることができる。生体サンゴ水槽は、水量約40t。水質や光の管理が難しく、展示はそれまで模造サンゴ中心だったが、今回の改修により、生きたサンゴを展示している</p>
<p>名古屋市科学館 [愛知県名古屋市] 2015.03</p> <p>生命館5階「くらしとバイオテクノロジー」に新展示品を設置。「バイオのめくみ」では、バイオテクノロジーを「医療」「食べ物」「環境・エネルギー」に分けて、既に実用化されたものや研究段階のものを紹介。「バイオの森」は、ゲノムの果実、あなたにインタビュ、バイオビック、バイオギャラリーの4つのコーナーで構成。足掛け4年をかけて行った生命館5階の展示更新が完成</p>
<p>名古屋市東山動物園 [愛知県名古屋市] 2014.04・2015.03</p> <p>2014年4月、こども動物園エリアにツシマヤマネコ舎が完成。国の天然記念物、ツシマヤマネコの生態や生息地の長崎県・対馬の環境を学ぶことができる。鉄筋コンクリートの平屋(90㎡)で、部屋は全部で6室を備える。生息地の対馬の自然環境をモデルにして整備。プールも備えてあり、水浴びの様子などを観察することができる。環境省のツシマヤマネコ保護観察計画に基づく繁殖施設としての役割も担う。部屋の半数の3室は非公開の繁殖室。2014年4月には、北國アメリカ大陸コーナーにハクトウワシ舎も新しくオープンしている。2015年3月、コアラ舎前広場に、新たな学習展示施設「KOALA FOREST コアラの森」が公開。約40㎡の広さに造られた屋根製作のスペースで、社は餌のユーカリを育てている森公園のユーカリの木をモデルに擬木で繁殖。解説パネルは文字を減らしてイラストや写真を多用した。コアラが地面を歩く様子や子どもを育てる袋の中の赤ちゃん、飼育員がユーカリを準備する場面などを流す映像モニターも配置</p>

ノリタケミュージアム [愛知県名古屋] 2015.03
「ウェルカムセンター」がリニューアルオープン。同センターは、同社の事業を紹介する施設として来場者に親しまれていたが、老朽化のため、建て替え工事を行い、新築された事務厚生棟の1階に新たに整備した。新施設では、株式会社ノリタケカンパニーリミテドの歴史や現在の事業などを映像や展示品で紹介している。ウェルカムゾーン、シアタールーム、ノリタケヒストリーテール、テクノロジーコーナー、CSRコーナーで構成

鳥羽水族館 [三重県鳥羽市] 2015.03
開館60周年を記念して整備していた新ゾーン「奇跡の森」がオープン。新ゾーンは水族館最上階(3階)のガラスに覆われた約500m。両生類や爬虫類がいた「森の水辺」ゾーンを半年かけて改修し、森や水辺にすむ生き物を見せる「陸」の空間を整備した。高い岩場から流れる滝やつり橋を設け、さまざまな探検気分を味わえるような工夫を凝らしている。国内の水族館で初めて飼育されるスナドリネコのほか、ケヅメリクガメ、エボシカメレオンといった「陸」の動物が水族館に新たに加わった

2005年万博記念 樋口友好ミュージアム [三重県津市] 2015.01
敷地内に、「オーストラリア館」(248m)を建設。四日市市にあったオーストラリア記念館(2013年12月閉館)の展示物を引き取って公開。愛知万博のオーストラリア館で人気を集めたカモノハシの巨大模型「カモン」をはじめ、ルビー原石や石炭といった鉱物資源、羊毛など40点を展示。オーストラリアの自然を紹介したパネルも設置

四日市立博物館 [三重県四日市市] 2015.03
常設展示やプラネタリウムを一新して、リニューアルオープン。館内1、2階に開館した「四日市公害と環境未来館」の整備に合わせてリニューアルを実施。3階は「道とともに発展してきた四日市」をテーマにした体感型の常設展「時空街道」を整備。「時空街道の旅」「久留宿の村」「四日市の市」「四日市宿」「四日市浜」エリアで構成している。弥生時代の堅穴住居、室町時代の四日市、江戸時代の四日市宿を、それぞれ原寸大で再現。時空街道の全エリアは一日を30分に設定して、照明の色が変化する。4階は特別展示室として活用。館内には、5階のプラネタリウムには、世界最多の1億4,000万個以上の星を映し出す最先端の光学式投影機が導入された。プラネタリウムでは世界初の「8Kプロジェクト」などとともに鮮明に星空を再現している

史跡草津宿本陣 [滋賀県草津市] 2014.04
史跡草津宿本陣の隣接地に「楽座館」をオープン。木造平屋建て83㎡で、外観は瓦ぶき屋根や格子、煙出しなど江戸時代の建物をイメージして、本陣の役割や当主の田中家が本陣職の傍ら営んでいた材木商に関する資料、本陣に飾っていたふすま絵、文書を保管した木箱などを展示。また、本格的な伝統芸能を気軽に鑑賞できる「本陣楽座」を毎月開催している

京都国立博物館 [京都府京都市] 2014.09
2009年から始まった旧展示館の建て替え工事が完了し、平常展示館「平成知新館」がオープン。京町家のイメージを取り入れて設計された空間で、地上4階、地下2階建て。建物全体が耐震構造で、展示室と収蔵庫の床下には車輪とレールを組み合わせた「転がり免震装置」を敷き詰め、震度7以上の地震の揺れを震度5程度に軽減する。館内には、13の展示室が配置され、展示面積は従来の1.7倍に広がった。展示空間は「名品ギャラリー」と名付け、展示ケースには透明度高いガラスを使用。地下1階の講堂(シアター)では、350インチの大画面で高精細映像「4K」やバーチャルリアリティが楽しめる番組を上映。1階には庭を眺めできるレストラン「The Muses」(ザ・ミュージーズ)も併設。2階のミュージアムラボラトリーでは、博物館所蔵の名品や広吉寺の石垣などに関連するハイビジョン映像を上映している。1階に設けられた「ミュージアムショップ 京都便利堂」は南門施設にもオープン

京都市動物園 [京都府京都市] 2014.04・2015.02
2014年4月、新しいゴリラ舎「ゴリラのおうち〜樹林のすみか〜」がオープン。旧獣舎の北約700㎡のエリアに、従来の1.6倍となる屋外展示場(332㎡)や屋内展示室(42㎡)などを整備。掘り下げ式の旧獣舎と違い、強化ガラス越しにゴリラと同じ高さで指や目などの形態を間近で見ることができ、屋外展示場の約2〜7mの高さに懸けられた空中回廊での行動も観察できる。ガラスより下の部分にはスリットが入り、声や臭いも感らされる。ゴリラ舎建設は2015年度までの整備計画の一端として取り組んだ。2015年2月、整備を進めていた「ウウの森」を公開(一部を除く)。ゾウを群れて飼育して観察結果を繁殖に生かすための施設。広さは約5,500㎡あり、ゾウ舎(約600㎡)やゾウランド(約2,000㎡)などを備えている。ゾウ舎とグラウンドの間に、ガラス越しに間近でゾウを観察できる「コンタクトコーナー」と呼ばれる新しい空間も設けた。直径約5cmののぞき穴があり、ゾウの臭いや鼻息などを直接体感することができる

グンゼ博物館 [京都府綾部市] 2014.05
事務所や休憩所として利用していた旧「商蔵」をグンゼ株式会社と綾部市について紹介する展示に変更し、「今昔蔵」としてオープン。今昔蔵では、創業者・波多野鶴吉とグンゼの歴史を紹介する「グンゼをこうう」、デジタルサイネージで紹介する「グンゼの現在」、「綾部をこうう」、「綾部・グンゼのドラマロケ案内」、「グンゼをつなぐCM」の展示を整備。また、グンゼ株式会社は、綾部市と共同で観光拠点「あやべグンゼスクエア」をオープン。同スクエアには、「グンゼ博物館」「綾部パラ園」と、同日開館で綾部市の特産品が購入できる「あやべ特産館」が含まれ、新たな市の観光拠点となっている

白沙村荘 橋本閑雪記念館 [京都府京都市] 2014.09
橋本閑雪が邸宅の造営を始めてから100年を迎え、閑雪の遺志を実現する形で新美術館「白沙村荘 橋本閑雪記念館 MUSEUM」が完成。美術館は鉄骨2階建てと、地下1階のある平屋の2棟で構成。2階建ての建物は、1階にケース付きの展示室、展望テラスのある2階にはケース無しの展示室を整備。1階では橋本閑雪の作品を含む美術品を展示。調光可能なUVカットの展示専用蛍光灯とLEDスポットの併用でメリハリのある展示を行うことができる。2階はのぞき型や行灯型などの多様なケースを自由に設置できるように広い空間を確保している。別棟の平屋の建物では全面ビクターレール敷設の上、調光とLEDスポットのレールを設置している

福知山市動物園 [京都府福知山市] 2014.05
レッサーパンダ舎を新設。市はレッサーパンダの繁殖実績がある鯖江市西山動物園を通じて、埼玉県こども動物自然公園で生まれたキャラの借り受けを実現。それに合わせて、園内に専用の飼育舎を整備。冷暖房を完備した飼育舎6部屋のほか、屋外の遊び場なども備えた

松尾大社 お酒の資料館 [京都府宇都市] 2014.09
展示内容を一新。それまでは関西の酒蔵から寄せられた酒造道具の展示が中心だったが、信仰と酒の関わりを重点を置いて展示を改装。新たな展示では、松尾大社を氏神とした秦氏と酒の関係や、酒にまつわる大社の祭事などを説明。また、日本人が四季折々に酒を楽しくしてきた歴史や、室町時代に茶道や華道などのような「酒道」があったことなども紹介している。京焼の作家などが大社に奉納した酒器なども展示

向日市文化資料館 [京都府向日市] 2014.11
開館30周年を迎えて、玄関ホール、常設展示室、収蔵庫をリニューアル。常設展示室と玄関ホールを照明を美術館などで使用されたLEDに切り替えた。収蔵庫は古文書などの劣化を防ぐため、温度・湿度の管理を強化した。入口の自動ドアには朱漆門をデザインした。常設展示室では、体験アスナー一部の展示ケースの位置を下げ、子どもたちがより身近に楽しめるように整備した

安藤百福発明記念館 大阪池田 (カップヌードルミュージアム 大阪池田)
(旧：インスタントラーメン発明記念館) [大阪府池田市] 2015.03
混雑緩和のための拡張工事を終えてリニューアルオープン。施設全体を12倍に拡張し、内装を一新した。スープや具材を選び、自分だけのカップ麺を作る「マイカップ麺ラボ」も登場。一席席数が2倍になり、待ち時間の短縮化を図った

泉大津市立織機館 [大阪府泉大津市] 2014.06
南海本線泉大津駅近くのテクスピア大阪の2階から1階に移設。所蔵品約5,000点のうち約50点約100㎡に展示。目玉は専門家が復元した大正初期の毛布織機(木製、高さ約3m)で、上部に「ジャカード」と呼ばれる毛布の模様を織り出す装置を備えている。施設内には、企画展開催や、市民の芸術作品発表の場として利用するギャラリーも併設

大阪商業大学商業史博物館 [大阪府東大阪市] 2015.03
常設展示室をリニューアルオープン。展示ケースにLED照明器具を設置し、展示品を明るく見やすくした。大阪〜北海道を行き来していた北前船の機型や、土地購入の際に登録される水帳などの展示内容も充実させた

大阪府立弥生文化博物館 [大阪府和泉市] 2015.03
1991年の開館以来初めて展示を大規模刷新し、リニューアルオープン。弥生文化に関する最新の調査・研究成果をもとに「卑弥呼と出会う博物館」として、邪馬台国の女王・卑弥呼の姿に迫る。第1展示室では、中央に「卑弥呼と出会うコーナー」を新設。掲げ持つ鏡や衣裳を学術的に考証した卑弥呼像を中心に、同時代の中国鏡20面、復元した食卓や宝石箱などを展示。タッチパネル式情報端末や音声ガイドも設置した

国立民族学博物館 [大阪府吹田市] 2015.03
南アジアと東南アジアの展示を一新してリニューアルオープン。新しくなった展示場では、「躍動する南アジアの現在」をテーマに約2,200点を出展。多様な生活様式や価値観がぶつかりあい、共存しながら発展するこの地域を、人や自動車、自転車、さまざまな家畜などでにぎわうストーリーのイメージで紹介。東南アジア展示では、起源が違う民族がさまざまな生活スタイルで暮らす「異種混交」の世界を表現するため、展示場を「東南アジアの一日」に見立てた。朝、昼、夕、夜それぞれに合わせて、約1,400点の資料を展示した

Bs SQUARE [大阪府大阪市] 2015.03
京セラドーム大阪2Fエリアにあるミュージアムをリニューアル。エリアを拡張し、前年度まで球場で使用していた選手のロッカーや、選手のトラックアウト等、展示だけでなく体験できるエリアに整備

ヒューモビリティワールド [大阪府池田市] 2015.01
来客者の増加を目指して展示内容の見直しを図り、リニューアル。テーマを従来の「人・家族に優しい」「地球に優しい」から、「くらしを考える」、「軽を考える」に変えて、体験型展示を中心に楽しみなながら学び、体験・発見できる施設に整備。くらしに根付いた軽自動車を紹介するテーマに、各年代を代表する車、生産された当時の生活様式とともに展示。装置を動かすと車の仕組みがわかる体験型展示に力を入れて、見て触れて楽しめる施設に改装

みさき公園 (自然動物園・わくわく電車らんど) [大阪府岬町] 2014.09
園内に、子ども向けの鉄道体験施設「わくわく電車らんど」が新設。テント屋根の施設(約480㎡)に、通勤電車などに使われた車両3両を先頭から約5mのところまでカットして展示し、車内でドアの開け閉めやアナウンスなどの車掌体験ができるように整備。特急レートの実物大模型も設置して、運転席にあるシミュレーターで運転士体験もできる。レールの秘密や電車の指令室について学べる展示コーナーや、わくわく電車広場、イベントコーナー、ギフトショップも設置。施設の外には本物の踏切を設置し、子どもたちの交通教育に役立てる

相生市立歴史民俗資料館 [兵庫県相生市] 2014.06
2階常設展示に「郷土の偉人コーナー」を新設するとともに、2階常設展示「矢野荘の移り変わり」をリニューアル。常設展示のリニューアルが完成し、古代から現代まで相生市の歩みを一覧できるようになった。2階常設展示では、古代から江戸時代までの矢野荘の歴史を展示。郷土の偉人として、福田肩仙、水守亀之助、佐多福子、浦山貞・桐郎を紹介

香美町立ジオパークと海の文化館 (旧：香美町海の文化館) [兵庫県香美町] 2014.04
山陰海岸ジオパークを学ぶ拠点施設として「香美町海の文化館」の装いを一新してリニューアルオープン。1階は山陰海岸ジオパークが学べるフロアで、約2千万年前に大陸から離れ形成された日本列島をはじめ、香美町の地形や地質が育んだ風土や暮らし、食文化などを分かりやすく模型やパネル写真で紹介。2階は海と共に発展してきた漁業の町・香住の「海の文化」を学べるフロア。北前船の歴史や伝統的な漁具、カニやイカ漁の様子とともに、日本海に生息する魚類を剥製で紹介している

カワサキワールド [兵庫県神戸市] 2015.01
常設展示「ものづくりシアター」に、新しく「航空機ができるまで」(約10分間)と「神戸第1ドック建造プロジェクト」(約10分間)の映像を追加(3画面マルチ映像で上映)

甲子園歴史館 [兵庫県西宮市] 2015.03
阪神タイガース「ヒーロー別伝」コーナーの大型映像装置(65インチ)に「投球体感映像」を追加。阪神タイガースの投手が投げける投球モーション、球筋やスピードを間近で体感することができる

神戸市立王子動物園 [兵庫県神戸市] 2015.03
2014年5月から「コザル舎」の改装工事を実施し、リニューアルオープン。新たなコザル舎は従来の1階建てから2階建てに変わり、地上部分と2階観覧通路の両側から観察できるように整備した。2階ではのぞき板けとなり空間の広がった展示場内には、振木・振岩を配置し、コザル本来の立体的で敏速な動きを再現するように工夫している。また、観覧部分の一部をガラス張りとし、コザルの姿を間近に観察できるようにしている。「水禽舎」もリニューアルオープン。クジャやカモなど8種類の鳥類を飼育しており、それまでは北側テラスと西側から網越しにケージ内を観察するようになっていたが、改装工事により北側テラスをケージの中に取り込み開放的なスペースにする一方で、西側の網も改修した。以前より鳥を観察しやすいように整備した

神戸市立須磨海浜水族園 [兵庫県神戸市] 2015.03
屋上展望広場の改装工事をし、リニューアルオープン。カピバラ舎と足湯が隣接して新設され、水中生物のタッチプールも一新した。「水辺のふれあい遊園」と名付けられた広場は、同園職員が、子どもたちの夢になったデパートの屋上遊園地をコンセプトに設計。カピバラの展示水槽前には、入場者が楽しめる足湯を設置。サメのタッチプール、ヒトデやウニのプール、子どもが水遊びできる水場も設置。大人がくつろげるカフェもリニューアルした

神戸市立青少年科学館「バンドー神戸青少年科学館」 [兵庫県神戸市] 2015.03
開館30周年を機に、第3展示室を大幅改修してリニューアルオープン。大型スクリーンを見ながら、銀河系や地球の深部を疑似探検するアトラクションを導入。「宇宙と地球」をテーマとした展示室には、メイン施設「時空ホッパー」を設置。空気圧ではねる遊具と映像を連動させて宇宙空間や海底を巡るアトラクション。大型スクリーン(幅15m、高さ7.9m)に地球の歴史や内部の構造を説明した3種の映像が映し出され、参加者は力を合わせてジャンプすることでミッションをクリアしていく。時空ホッパーで紹介された惑星や深海の生物などについて検案して学べる大型タッチパネル「探検のトビラ」や、直径8mの地球儀に大気層などのCGが重なって見える望遠鏡「地球探査スコープ」も設置した

宝塚歌劇の殿堂 (旧：Salon・de・Takarazuka 宝塚歌劇ブチミュージアム) [兵庫県宝塚市] 2014.04
宝塚歌劇100周年を機に、宝塚大劇場内の「Salon・de・Takarazuka 宝塚歌劇ブチミュージアム」を名称も改めて、リニューアルオープン。大劇場のロビー棟2、3階に開設(566㎡)。タカラヅカの1世紀を凝縮した顕彰施設で、「観覧ゾーン」「企画展ゾーン」「現在の宝塚歌劇ゾーン」の3つのテーマで構成されている。宝塚歌劇の発展に貢献したカララジュニスやスタッフ計100人を「殿堂入り」として顕彰。創設者の小林一三のほか、往年のスターをゆかりの品々とともに紹介している

仁川百合野町地すべり資料館 [兵庫県西宮市] 2015.01
土砂災害で34人が犠牲になった西宮市仁川百合野地区にある同館が開館以来初めて改装を行い、リニューアルオープン。土砂災害の仕組みや兆候、備え方を紹介する映像や模型などを新設し、展示スペースを拡充した

にしわか経緯度地球科学館「テラ・ドーム」 [兵庫県西脇市] 2015.03
1993年のオープンから20年が経過したのを機に施設をリニューアル。新しい展示物として「雨粒のダンス」 竜巻発生装置「夕焼け発生装置」 ふしぎな影「気象コーナー」 「環境学習コーナー」を設置。子どもたちが、地球や身近な科学を楽しく学べるように、触ったり見たりすることのできる装置を取り入れた

<p>姫路市立水族館 [兵庫県姫路市] 2014.04</p> <p>34年ぶりに海や磯の生き物に直接触れるタッチプールがリニューアルオープン。プールの老朽化のため、大型遊休に合わせた2013年10月から改修工事を実施した。1カ所だったタッチプールは2カ所に増やした。それまであった播磨の磯にすむ生きものたちに触れるプールにはマドテヤマサキウニなど8種類80匹ほどがいたが、新たに設けた「サメ・エイのタッチプール」(水量11t)、「播磨の磯のタッチプール」(水量6t)には、おとなしいネコザメやホシザメ、しっぽの毒針を抜いたアカエイなどを加え、合わせて15種類約120匹まで増やした</p>
<p>兵庫県立人と自然の博物館 [兵庫県三田市] 2015.02</p> <p>4階のひとはくサロンの全面的なリニューアルを実施。様々な立場の人が多様な学びを体験できる、ゆったりとした空間づくりをテーマにリニューアル。それまではデスクトップPCとモニターが格納された大型仕様が設置されていたが、小型のタブレットPCを採用し、モニターアームを用いて様々な角度や高さで閲覧できるようにしたことで、子どもから大人、車椅子の人も閲覧でき、机に広いスペースを確保することもできた。情報端末が小型化してできたスペースを活かして、可搬可動式の触れる標本や資料なども配置。ほかにも、壁一面のホワイトボードを導入してワークシヨップ機能を強化したオープンラボ(旧小セミナー室)の改装や館内のWi-Fi環境の導入、iピーコンと携帯端末(スマートフォン)による情報発信、研究員の論文紹介コーナー、博物館の刊行物配架コーナーなどの設置を行った</p>
<p>北淡震災記念公園 野島断層保存館 [兵庫県淡路市] 2015.02</p> <p>阪神・淡路大震災20年に合わせて、施設の充実化を図り、リニューアルオープン。より幅広い体験ができるように、東日本大震災の要素を取り入れた構成にした。東日本大震災の揺れは宮城県付近のデータを使用し、振揺れが長く続く海溝型地震を再現。起震装置上に設置したリベリングローのデザインや家具を変更し、模擬揺れを設置。発生と同時に流れる緊急地震速報も再現した。館内のミニシアターの設備や映像も一新。ミニシアターは1枚のスクリーン(約100インチ)から、80インチのテレビを3台並べて大型化した。上映作品に東日本大震災の映像を盛り込み、南海トラフ大地震への備えを呼び掛けている</p>
<p>六甲山の上美術館「さわるみゅーじあむ」 [兵庫県神戸市] 2015.03</p> <p>新たな展示室「BLACK ROOM」を開設。真っ暗な約10㎡の室内に立体的な古墳の壁画などを展示した。彫刻家・小林隆一郎氏のオブジェも新たに展示</p>
<p>明日香民俗資料館 [奈良県明日香村] 2014.04</p> <p>1階にチャレンジシヨップ「ASUCOME-明日香夢」が開店したのに合わせて資料館も改装。「食」とそれに関する視点を基本概念に、「食」「住」「農耕」のテーマごとに展示品を並べ替えた。展示内容を刷新して近世・近代の祭りや民具、農具を紹介することで、「古代史の宝庫」として知られる同村の違った一面を知ることができるようにした</p>
<p>興福寺国宝館 [奈良県奈良市] 2014.09</p> <p>展示方法と照明を一新してリニューアルオープン。それまで横一列に並べていた国宝の板彫十二神佛像12面の展示を「コ」の字形に新たに配置し、本来並べられていたとみられる姿に近づけた。照明も明るく像を傷めにくいLED照明に取り替え、陰影がはっきりし、立体感が増した</p>
<p>南都明日香ふれあいセンター犬養万葉記念館 [奈良県明日香村] 2014.11</p> <p>観光客や地域住民が利用しやすい開放的な雰囲気施設を改装して、リニューアルオープン。展示スペースだった部屋には窓やスクリーンを設置し、展覧会やコンサート、会議、集会など、さまざまな用途で利用できるようにした。にぎわいの街づくりの拠点として、オリジナルの軽食を提供する「つばいちカフェ」も開店。庭には仮設屋根を設置して、屋外カフェテラスを設けた。図書スペースも開放的な雰囲気に改装</p>
<p>歴史に趣く榎原市博物館 (旧：榎原市千塚資料館) [奈良県榎原市] 2014.04</p> <p>榎原市千塚資料館を大規模改装して、館名も新たにリニューアルオープン。常設展示室は、ガラスケースを使用しない露出展示を中心にした。展示棚の下は、車椅子の人も身近に観覧しやすいように、足が入る空間を設けている。常設展示は、榎原市の歴史を縄文時代から江戸時代まで4つのゾーン(「かかしらの夜明け」「新沢千塚とその時代」「藤原京の世界」「京との訣別」)に分けて、考古資料を中心に紹介。特別展示室は、国宝や重要文化財も展示できるように整備した</p>
<p>アドベンチャーワールド [和歌山県白浜町] 2014.11・2015.02</p> <p>2014年11月、サファリワールドのキリンテラスがリニューアル。草食動物ゾーンを見渡すことができる2階デッキと、シマウマなどの動物に接近することができる1階デッキで構成。1階と2階からそれぞれ違った目線で、動物を見ることができる。2015年2月、プレイゾーンに、ライオンモーターのナポリピッツァ専門店「レオネピッツァ」がオープン</p>
<p>京都大学白浜水族館 [和歌山県白浜町] 2014.07</p> <p>2013年11月から休館して耐震改修工事や内外装工事、水槽などの飼育設備を一新するなどの改修工事を行い、リニューアルオープン。通路や水槽を含む全館の照明をLED化し、内壁には断熱材を使用、太陽光発電設備を整備した。通路を改善して来館者の休憩スペースも新設した</p>
<p>串本海中公園 水族館 [和歌山県串本町] 2014.04</p> <p>水族館内Bゾーンに「3Dうみがめシアター」がオープン。サンゴの産卵シミュレーションやアジの群れ、串本の海を象徴するアザハタ、色鮮やかなチョウチョウウオなど、150インチの大画面で3D眼鏡を使用して映像を楽しむことができる。海中の様子は海中展望塔や半潜型海中観光船から観察ができるが、荒天時は乗って見えなかったり、船が欠航になったりするため、荒天時はシアターの映像で海のの様子を楽しむことができるようになった</p>
<p>島根県立しまね海洋館(アークス) [島根県浜田市] 2015.03</p> <p>近海を再現した大型水槽による新たな展示「石見万葉の磯」がオープン。コブダイやスズキエ、カワハギなどを展示。それまでの展示「しまねの磯」を原型とし、江津市の大崎島灯台に近い辛の崎をイメージして改装した。水槽には海側から眺めた磯を忠実に再現した。さらに灯台の模型を据え、噴流装置で渦巻く波を表現している</p>
<p>島根県立宍道湖自然館(コビウス) [島根県出雲市] 2015.03</p> <p>水辺の生き物に親しめる「あそびっ湖 まなびっ湖ひろば」がオープン。それまではザリガニなどに直接触れられるコーナーがあったが、規模を拡充してリニューアルを行った。3段階の高さの大型タッチプールを設置し、箱メガネで観察したり生きものに触れることができる。生き物の種類と数も大幅に増やした。特別展の会場や休憩・学習の場としての利用も可能</p>
<p>笠岡市立カブトガニ博物館 [岡山県笠岡市] 2014.07</p> <p>展示コーナー「カブトガニ百科」をリニューアル。2階に上がるスロープの手前にある、カブトガニの「形態・生態」「産卵」「発生」について学べるコーナー「カブトガニ百科」は、それまでブック形式で展示していたが、タウ化工株式会社が開発したパネル式の展示装置「カブトガニ百科」を富橋。タッチパネルと、その上にあるモニター(40インチ)には同じ画面が表示されるため、パネルを操作していない人も見ることができる</p>
<p>川崎医科大学現代医学教育博物館 [岡山県倉敷市] 2014.04</p> <p>2階展示室の一部をリニューアル。予防医学部門の展示「病気の予防」を新設。感染症や生活習慣病の予防方法などを紹介したパネルのほか、気軽に健康測定を楽しむ機器も設置した。「生活習慣」「感染症とその予防」「保健」の3つのテーマに沿って、パネル計22枚を展示</p>
<p>倉敷市立磯崎眠電記念館 [岡山県倉敷市] 2015.01</p> <p>敷地内の空きスペースに、木造平屋建ての別棟「花むしろ工房」(約50㎡)がオープン。手動型と一部電動型の織機が設置され、手動型の織機は昔ながらの手織り体験でランチオンマットを製作することができる。明治時代の足踏み式手織り機や電動織機、イガサの栽培から製品化の過程を示すパネル写真や工程別のイガサなど約20点を展示</p>
<p>現代玩具博物館・オルゴール夢館 [岡山県美作市] 2015.03</p> <p>2号館「CREATIVE STUDIO」を新設。本館の南西約500㎡に立地。市が空き店舗(鉄骨平屋108㎡)を賃借して、改装整備。小黒三郎氏がデザインした電動糸のこで作る組み木人形作りや博物館オリジナルの工作キット作り、おもちゃ作りなどができる</p>

<p>ジーンズミュージアム&ヴィレッジ [岡山県倉敷市] 2014.04</p> <p>ジーンズのベティスマスがジーンズミュージアム2号館「国産ジーンズ館」をオープン。1970年代に稼働していたジーンズの洗いの工場(鉄骨3階建て)の1階約230㎡をリノベーションした。見鳥から生まれた国産ブランド「BETTY SMITH」「BIG JOHN」「BOBSON」の各時代の製品を展示しているほか、販促ポスターや関連年表、新聞記事などを展示。工場で加工に使っていたドラム式大型洗濯機や脱水用遠心分離機はそのまま残した</p>
<p>招き猫美術館 [岡山県岡山市] 2015.01</p> <p>開館20周年を機に、旧別館を新たに本館としてリニューアルオープン。よりゆったり鑑賞してもらえるよう、旧本館の1.5倍の広さがありイベントスペースとして利用してきた旧別館を全面改装した。展示室やミュージアムショップ、猫の絵本コーナーなどを備え、スペースもそれまでの約120㎡から約180㎡に広がった。1階を企画展、2階を常設展に分けるなど展示方法も見やすくなるように工夫した。旧本館は、「LUCKY CATS HOUSE」と名付け、イベントスペースなど交流の場として活用</p>
<p>ひろしま美術館 [広島県広島市] 2014.07</p> <p>テールームを新たに「カフェ・ジャルダン」としてリニューアルオープン。外光を取り入れた明るい内装を替え、中庭を眺めながら食事や休憩を楽しめるようにした。店名の「ジャルダン」はフランス語で「庭」の意味で、同館収蔵作品の代表作、ゴッホ「ドービニーの庭」にちなんで名付けられた。そのほか、入口には花壇とスロープを新設。展示室の照明は全てLED照明に切り替えた</p>
<p>周南市美術博物館 [山口県周南市] 2014.11</p> <p>2階展示室の一角を改装して「まど・みちおコーナー」(約70㎡)をオープン。童謡「ぞうさん」で知られる地元出身の詩人、故・まど・みちお氏の抽象画や資料を展示。同館は抽象画を中心に同氏の絵画290点を所蔵し、10点ずつ定期的に入れ替えて紹介する</p>
<p>重要文化財 旧下関英国領事館 [山口県下関市] 2014.07</p> <p>2008年12月からの保存修理工事を終えてリニューアルオープン。本館1階には当時の雰囲気伝える旧領事室のほか、地区の歴史的建造物を紹介するヒストリールーム、英国雑貨などを販売するショップコーナーなどを整備。ホレنگラス(旧海事監督官室)では、32インチのモニターで、CGによる保存修理の過程や領事館の歴史を伝える映像を見ることができ、領事館として使用されていた時代には、使用人たちが使っていた附属屋はギャラリーに整備した。2階はカフェレストラン・パブ「英国館」に改装。旧寝室はミーティングルームとして整備した</p>
<p>ときわ動物園 [山口県宇部市] 2015.03</p> <p>「アジアの森林ゾーン」と体験学習館「モンスター」がオープン。同園は、2012年から全面的なリニューアル整備を推進している(グラドオープンとは2015年度)。「アジアの森林ゾーン」では、アジアの森林や湿地に似た環境を整備し、シロテナガザルをはじめ、ハヌマンラングール、シオザル、トクモンキーなど、アジアに生息するサルたちを自然のままの姿で見ることができ、また、ボンネットモンキーとコツメカワウソの同居展示にも取り組んでいる。学習施設ゾーンに設けた体験学習館「モンスター」では、動物を通して生命や自然環境が学べる、時事や動物を視野に入れたタイムリーな企画を展開している。同園は、希少な霊長類を中心に特色ある動物を飼育展示し、それぞれの種がそれぞれの環境に適応していることを理解しやすいよう、自然環境を再現する「生息環境展示」を採用して、園全体の自然生態園化を図っている</p>
<p>ISEKI Dream Gallery (旧：井関農機 松山展示館) [愛媛県松山市] 2014.04</p> <p>2015年に創立90周年を迎えるにあたり、既存の松山展示館を「ISEKI Dream Gallery」としてリニューアルオープン。農業機械のこことと農業とともに歩むISEKI(井関農機株式会社)の精神、取り組みなどを展示・紹介。井関松山製造所で製造しているトラクタをはじめ、最新の農業機械や営農情報などを360度映像によるバーチャル田植え体験や3D映像の秒速2mの刈取り体験では、実際に農業機械で作業を行っているような感覚を体験することができる</p>
<p>宇和島市立城山郷土館 [愛媛県宇和島市] 2015.03</p> <p>宇和島伊達400年祭に合わせてリニューアルオープン。リニューアル後の展示は「うわじま伊達・偉人展」と称して、宇和島出身の偉人やゆかりの人物にスポットを当てた。8代藩主宗城や鉄道唱歌を作詞した大和田建樹、旧吉田町出身で「海運王」と呼ばれた山下亀三郎などを映像、パネル、関係資料を交えて紹介。数々の文豪に愛されたまちとして吉村昭の作品などを使った文学コーナーや子どもも楽しめるキッズコーナーも設けた</p>
<p>愛媛県立とべ動物園 [愛媛県砥部町] 2014.10</p> <p>触れ合える鳥舎「フライングケージ」とチンパンジーの繁殖を目指す新展示施設「チンパンジーの森」がオープン。「フライングケージ」は、水禽ケージをリニューアルして整備。散策しながら鳥を間近に観察できるケージと、のぞき窓から鳥が木に止まる様子を近くで見ることが可能な2階建ての観察小屋で構成。広さはそれまでの約3倍(230㎡)になった。ミカンの木を植えるなどして愛媛の里山を再現。観察小屋1階には鳥類の剥製や巣も展示している。ケージ外には、ガラス越しに水鳥の脚の動きや餌を食べる様子を確認できる水中展示広場も設けた。鳥インフルエンザ発生時に鳥を隔離する部屋も整備している。「チンパンジーの森」は、幅20m、高さ9m、奥行き10m。モンキーターの獣舎と橋状の通路でつながった。木が茂る斜面に設置し、樹上で過ごす様子が見られる。渡ったり歩いたりできるよう、ロープや板などを取り付けた</p>
<p>鉄道歴史パーク in SAJIJO [愛媛県西条市] 2014.07</p> <p>新たに「四国鉄道文化館南館」がオープン。C57形蒸気機関車、四国の急行列車で活躍したキハ65形気動車、軌道の間(ゲージ)が違う新幹線と在来線の双方で走れる試験車フライングレイン、DE10ディーゼル機関車などを展示。鉄道歴史パークは、四国鉄道文化館北館、南館、十河信二記念館、観光交流センターで構成。新たに加わった南館は県産のスギ材とヒノキ材を使用。屋外展示場やキャスルも整備。北館とは陸橋「ほっぽ橋」で結ばれている</p>
<p>海洋堂かっぱ館 [高知県四万十町] 2014.07</p> <p>カッパのフィギュアを展示する「かっぱ館2号館」がオープン。毎年、新たな作品が寄せられ、1号館が手狭になったことから整備した。「カッパの城」をイメージした建物で、外観は周囲の自然と調和するように土壁で統一し、県産のスギを使用した。1号館とは渡り廊下でつながっている。2号館は地上2階、地下1階建てで、延床面積約260㎡。1階には「カッパ造形大賞」入選作のフィギュアなどを展示。2階には多目的ホールや収蔵庫を整備した</p>
<p>高知県立美術館 [高知県高知市] 2014.10</p> <p>土佐市出身の国際的写真家、故・石元泰博氏の作品を紹介する常設展示室「石元泰博展示室」がオープン。同館は、石元氏や親族から寄贈された写真約35,000点、フィルム約155,000点、書籍約5,000冊、撮影機材などを収蔵している。新たな展示室は、同館2階のライブラリーと講義室を改装して整備した。展示室奥には、フィルムや書籍類を保存し研究活用する作業・保管室も設置。展示室は、天井や壁が白で覆われた「ホワイトキューブ」と呼ばれる内装に仕上げられている。石元氏の自撮りビュートを再現したコーナーの脇にはタブレット端末が置かれ、作品を検索、閲覧することができる</p>
<p>秋月美術館 [福岡県朝倉市] 2015.03</p> <p>1995年の改装オープン以降、建物の老朽化が原因で、新たな展示棟を新築。2階建て、延床面積約500㎡。旧美術館に展示されていた高取焼の品々を新たな展示ケースに展示。併せて庭園のリニューアルも実施した</p>
<p>大牟田市石炭産業科学館 [福岡県大牟田市] 2015.02</p> <p>2015年世界文化遺産となった「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の「インフォメーションコーナー」を新設。倉庫約52㎡のうち約30㎡を専用の展示コーナーに改装し、明治日本の産業革命遺産の構成資産をパネルや映像、パンフレットなどで紹介</p>

グリーンパーク 熱帯生態園(響灘緑地) [福岡県北九州市] 2014.04
1992年の開園以来初のリニューアルを実施。それまで市の外郭団体が運営していたが、指定管理者運営となることを機に、展示内容の見直しを図った。リニューアルは、和歌山県すさみ町の「エビとカニの水族館」の森拓也館長が監修。カエルなどの両生類やヘビ、イグアナなどの爬虫類を中心に、18種類の小動物を新たに導入した。親子で楽しめる熱帯ジャングルの世界が再現されている。池の水面を数10cm下げたことで魚やカメを見やすくし、じっくり観察できる効果を狙うなど、展示方法に工夫を凝らした
林芙美子記念室(旧: 林芙美子記念資料室) [福岡県北九州市] 2015.02
旧門司三井倶楽部2階の展示室をそれまでの2室から4室に拡大し、リニューアルオープン。「林芙美子記念資料室」を改装し、広さを約2倍の160㎡に拡大。東京の博物館などが所蔵する原稿など、約50点の複製を新たに制作し、展示品も約150点に倍増させた。1室～3室で芙美子の生涯を追い、4室では交流のあった作家たちからの書簡や、絵画や書、遺愛品などを展示。林芙美子が暮らした家(現 新宿区立林芙美子記念館、新宿区)の書斎の再現も行った。リニューアルは、市が2014年度に「林芙美子文学賞」を創設したのを機に企画された
佐賀市大隈記念館 [佐賀県佐賀市] 2015.02
施設の老朽化と展示の固定化解消を目的に改修工事を行い、リニューアルオープン。外観を尊重しながら、モダンな展示室やカフェを設けると、内装を一新。パネルで大隈侯の生涯を分かりやすく紹介し、展示用の壁や八角形のケースを設けて、さまざまな展示形態に対応できるようにした。2階にスタンドグラス扉を新設し、階段にはレッドカーペットを敷き、豪華さも演出している。さらに企画展示室も設置した。1階には、会議室を改修してテラス付きのライブラリーカフェを新設した
佐野常民記念館 [佐賀県佐賀市] 2014.12
世界文化遺産登録を目指す国史跡「三重津海軍所跡」を紹介する展示スペース「三重津海軍所跡インフォメーションコーナー」が開設。展示スペースは、展望室だった3階の160㎡に整備。海軍所跡の概要をまとめたグラフィックパネルや幕末の佐賀の近代化やドライブの仕組みが分かる映像、ドライブの復元模型、タッチパネルを使った情報検索システムなどを整備した
長崎バイオパーク [長崎県西海市] 2014.04
小動物と触れ合える有料施設「PAW(パウ)」がオープン。パウ(約180㎡)は、秋田犬などのイヌ、ネコ、ウサギ、フクロウなど約40種類約350匹と触れ合うことができる。さらに、飲食や買い物を楽しむ「無料エリア」も設置。無料エリアは約2,000㎡。入場口を約60m後退させたことで、ハンバーガー店や土産店、ペリカンがいる池などが入園料なしで利用できるようになった
南島原市有馬キリシタン遺産記念館(旧: 原城文化センター) [長崎県南島原市] 2014.04
原城文化センターを全面改修し、世界遺産ガイダンス施設「有馬キリシタン遺産記念館」としてリニューアルオープン。「長崎の教会群とキリシタン教関連遺産」の世界遺産登録を目指し、従来の原城跡に加え、日野江城跡など市内のキリシタン遺産を紹介する展示に変更。キリシタン文化の伝来・繁栄と弾圧・復活に展示テーマを大別して紹介。両城跡の出土品や、キリスト教の教育機関「セミナリヨ」などに関する資料が並ぶほか、それまで市内に点在していた関連資料も集約した。歴史を分かりやすく紹介する映像シアターも新設
阿蘇火山博物館 [熊本県阿蘇市] 2014.04
2階常設展示室に新展示「草原の成り立ち(自然と人の関わり)」と「日本の海底と未来の資源」を設置
ISEKI Dream Gallery KUMAMOTO(旧: 井間農機 熊本展示館) [熊本県益城町] 2014.10
2015年に創立90周年を迎えるにあたり、既存の熊本展示館を「ISEKI Dream Gallery KUMAMOTO」としてリニューアルオープン。農業機械のことも農業とともに歩むISEKI(井間農機株式会社)の精神、取り組みなどを展示・紹介。井間熊本製造所で製造しているコンバイン、エンジン取換機などの農業機械を展示しているほか、特許を含めISEKI(井間農機株式会社)の製品技術を紹介。3D映像の秒速2mのくり取り体験では、実際に農業機械で作業を行っているような感覚を体験することができる。デジタルライブラリーやデジタルサイネージも整備
北里柴三郎記念館 [熊本県小国町] 2014.10
施設の老朽化などに伴い、1987年の開館以来初めて3年をかけて改修工事を実施。生家の屋根のふき替えや、展示内容は町出身の細菌学者・北里柴三郎のストーリーを中心に充実させた。受付棟を新築増設して地元住民が使える交流室を設けたほか、庭園整備、入口のスロープや北里文庫に車いす用のリフトを新設した
熊本市現代美術館 [熊本県熊本市] 2014.06
親子で過ごせる「街なか子育てひろば」がオープン。保育士などの資格を持つアドバイザーが子育てに関する相談に応じるほか、美術館と連携したワークショップも開いている。交通の便が良い市中部に子育ての相談や交流ができる場を設けようとし、館内のメディアギャラリを改修して整備。未就学児とその保護者が対象で、積み木や絵本、遊具を置いている。国が進める「地域子育て支援拠点事業」の一環で、美術館内に子育て支援拠点施設が整備されるのは全国で初めて。子育てひろばのオープンにあわせて、木のプールやビッグブックがあった館内のキッズサロンを子育てひろば内に移設した。旧キッズサロンの場所には「アートスカイギャラリー」が誕生。「人と情報とアートのプラットフォーム」をコンセプトに、人と人が情報交換をし、つながっていく場を目指している。全国のアートプロジェクトの情報や展覧会情報などを発信したり、美術館を日常的に利用し、アートを身近に感じてもらえる場として、イベントやワークショップなども行っている
水俣市立水俣病資料館 [熊本県水俣市] 2014.11
同館西側の一角を増築して、語り部が講話をする新たな「語り部講話室」が完成。それまでの約2倍となる約170㎡のスペースには、130席が配置され、壁には県産のスキ材や和紙を使用して温かみのある空間に整備した。講話の関連資料を映すプロジェクターとスクリーン、補聴器を利用する人にも聞こえやすい音響装置なども備えた
南阿蘇ビジターセンター [熊本県高森町] 2014.04
阿蘇くじゅう国立公園指定80周年にあたり、展示物の改修を実施。阿蘇全体の生物多様性を分かりやすく伝える展示内容に一新したほか、休憩場所も整備。「阿蘇の自然ゾーン」では、高さ3mの壁に中岳火口や草原、森林、農耕地などの写真をプリントし、カルデラの秘密や動植物、人々の暮らしを模型などで紹介。また、それまで90枚の写真で展示していた阿蘇の花々は、デジタル化して液晶画面に映し出すようにした。中岳91火口の様子や天気、交通情報もリアルタイムで分かるなど、利用者へのサービスも充実させた

山江村歴史民俗資料館 [熊本県山江村] 2014.07
読み聞かせなどができる図書室「やまえほんの森」を開設。1階の多目的ホール約250㎡を改装。未就学児向けを中心に約3,300冊の絵本をそろえ、親子で利用できる施設を目指した。ほかに児童書などの蔵書も5,000冊あり、読み聞かせができる畳敷きのコーナーも設置
竹田市瀧廉太郎記念館 [大分県竹田市] 2014.04
1992年の開館以来、22年ぶりにリニューアル。「瀧廉太郎を育んだ空間を体験する。」をコンセプトに、「音環境を体験する場」に特化。「資料展示は音風景を体験するための補助線」展示物にはストーリー性をもたせることを目指した。廉太郎の生涯を和風建築になじみ垂れ幕に印刷して紹介したり、大きな展示ケースをなくして畳のスペースが広がった場所から、鳥の鳴き声、水路の水音、下駄の響きなど、本来の廉太郎が聞いたであろう音環境をゆっくりに感じることができ空間に整備した
長者原ビジターセンター [大分県九重町] 2015.03
1997年7月の改築以来初めて展示施設のリニューアルを実施。くじゅう連山などの自然を分かりやすく紹介するとともに、外国語での案内も充実させた。リニューアルの目玉は1階と2階の吹き抜け部分に設置した幅4.5m、高さ3.6mの巨大な布。片面に平治岳から見たくじゅう連山、もう一方の面には久住高原から見た連山の写真が印刷されており、雄大な風景を楽しむことができる。展示物は草原、森林、山岳、水辺などの項目ごと整理。生物や植物の関わり合いを丁寧に説明している。外国人観光客の増加に伴い、英語、中国語、韓国語の説明も加えた
宮崎科学技術館 [宮崎県宮崎市] 2015.01
市制90周年を機にプラネタリウムをリニューアル。全天周デジタル映像システム「Virtuarium-X」と新しいプロジェクターを導入(更新)した
奄美野生生物保護センター [鹿児島県大和村] 2014.04
奄美群島の国立公園指定や世界自然遺産の登録を見据え、展示などの改修を実施。奄美大島や徳之島だけに生息する、希少な動物の剥製展示を以前よりも充実させた。動物の標本を剥製を大幅に増やし、解説パネルと映像ソフトを全て新しくすることによって情報発信力を強化した。さらに、より多岐のことを学びたい人のために、各所に解説シートを置いたり、タッチパネル式の動物・植物図鑑を設置した。調査研究コーナーでは、奄美の自然関係の資料や、「奄美野生生物保護センター」の取り組みなどを展示。学習の場や憩いの場となるよう、ライブラリースペースの改修や、パドウォッチングを楽しめるウッドデッキの新設も行った。地域振興のため、施設の衣装には地場産材(リュウキュウマツ)を利用している
鹿児島市平川動物公園 [鹿児島県鹿児島市] 2014.04・2014.11
2014年4月、「南アメリカの自然ゾーン」がリニューアルオープン。は虫類館があった場所に南アメリカ地域に生息する動物たちを展示する「南米館」を整備。屋外運動場と寝室の間に空中通路を設置し、フタコビナマケモノやボリビアリスサルなどが行き来する姿を下から楽しめるように整備した。2014年11月、「世界のツルゾーン」がリニューアルオープン。世界のツル全15種のうち、タンチョウやカナダヅルなど国内最多種の11種を飼育している。同ゾーンでは、ホオジロカンムリヅルを除く10種が14室に分かれて展示され、展示室を同じ大きさにすることで比較展示できるように整備した。同ゾーンの完成で、2015年度までに段階的に進めるリニューアル事業の第5弾が完了した
鹿児島市立科学館 [鹿児島県鹿児島市] 2014.04
4階「宇宙の科学」には「はやぶさシミュレータ」(2台)を設置。模擬管制室に小惑星探査機「はやぶさ」が行ったミッションを操作体験できるシミュレータを設置した。チャレンジできるミッションは、(1)人工衛星の打ち上げ、(2)地球スイングバイ、(3)タッチダウン、(4)通信途絶からの回復、(5)大気圏再突入、(6)人工衛星軌道シミュレーションの6つ
屋久島世界遺産センター [鹿児島県屋久島町] 2014.05
1996年の開館以来、施設の老朽化が進み、2012年には屋久島国立公園として独立したため、施設を一新。屋久島世界自然遺産と屋久島国立公園の紹介に重点を置いた展示にリニューアル。展示室を全面的に入れ替え、屋久島だけでなく、その西側にある口永良部島の自然の成り立ちも知ることができる施設に生まれ変わった。海岸線の照葉樹林から山頂部の草原帯まで、標高ごとに異なる植生を模型で表現。口永良部島にしか生息しないエラブオコウモリや、ウミガメの保護活動も紹介している。トイレはバリアフリー対応とし、環境に配慮してLED照明を導入した
糸満 海人工房・資料館 [沖縄県糸満市] 2014.05
「新展示収蔵庫」がオープン。収蔵庫を兼ねた資料館(約330㎡)を旧資料館隣に建設。庫内には、伝統的な道具や実際にウィンチュが使用していたサニと呼ばれる木造船など、糸満のウミンチュ文化や歴史がわかる展示品が収められている。入口に段差がなく通路も広いので、車椅子でも利用できる
沖縄こどもの国(ZOO&MUSEUM) [沖縄県沖縄市] 2014.04
沖縄こどもの国が、動物園に子ども博物館を融合させてリニューアルオープンした2004年から10周年を迎えたのを機に、子ども博物館「ワンダーミュージアム」の内容を一新。それまで展示されていた17の展示品を全て入れ替え、子どもたちが「見て」「聞いて」「触れて」科学や芸術の世界を体感し、知的好奇心を刺激する34の展示品を新たに設置。1階から地下2階までの3フロアに、「きつぎの森」「ボールサーカス」「そうぞう工房」にぎわい広場「光のあとE」の5つのテーマで展示コーナーを整備した
沖縄美ら海水族館 [沖縄県本部町] 2014.04
初のアンテナショップ「うみちゅらら」が、わしたのショップ国際通り本店2階(那覇市)にオープン。ぬいぐるみやハンカチなど約400種類の水族館オリジナルグッズのほか、やんばるエリア「やんばる」で北部地域の工芸品や菓子など100種類以上の物産品を販売。店内のカフェでは、沖縄の果実や野菜、薬草を使った健康スムージーなどを味わうことができる。店内に設置した200インチの大スクリーンでジンベザメなどの映像を楽しむことができ、「miniアーク」として人気のカクレクマノミなどを小型水槽で展示している

開設博物館、リニューアル博物館に関するデータの集計・分析では、各館の開設、リニューアル当時のデータに基づいて集計を行いました。2014年度の開設博物館情報、リニューアル博物館情報について、調査もれ、記載間違いなどがある場合は、ご教示いただければ幸いです。(石川・福留)



ミュージアム・データ No.81 2018年2月1日発行

発行: (株)丹青研究所 〒108-0075 東京都港区港南 1-6-41
<http://www.museum.or.jp/tanseiken/>
 企画・編集: 文化空間情報部 ☎03-6455-8287
 ©Tansei INSTITUTE